

整地・運搬・積込み用機械を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	2	4 ～ 6	新聞配達中、除雪車に激突されたもの。	080205	17	10～ 29
2022	2	14 ～ 16	商業施設駐車場の排雪作業中、トラクター・ショベルを用いてダンプトラックの荷台に雪を積込み後、当該トラクター・ショベルを前進させた。その際、バケットの死角に入っていた被災者に気が付かず前進したところ、当該トラクター・ショベルに対し後ろ向きで立っていた被災者の上半身にバケットの左角部分が接触し、被災者がうつ伏せの状態路面に倒れこみ、当該トラクター・ショベルの左側前輪に轢かれた。	030199	6	50～ 99
2022	4	0 ～ 2	三交代制で設備の保守点検のため巡視等の業務に従事していた被災者が、ホイールローダーの作業エリアを通行していたところ、木材チップをホッパーに投入するため後進してきたホイールローダーに轢かれたもの。被災者は頭部等を轢かれておりその場で死亡が確認された。	010601	7	100 ～ 299
2022	4	10 ～ 12	製造業事業場の工場建屋内で、構内協力会社労働者1名がトラクター・ショベルを運転し、原料をホッパーに供給する通常作業を行っていた。災害発生時、当該工場建設工事を請負う一次下請け事業場の労働者2名が、ヤード内設備工事のためヤード内に入った際に、後から入った被災者がトラクター・ショベルの後方を通り作業箇所に向かったため、被災者に気が付かず後進したトラクター・ショベルに轢かれた。	030302	7	1～9

2022	5	14 ～ 16	消防署庁舎改築工事現場において、被災者が現場内の掘削残土に混入するゴミを手で取り除く作業を行っていたところ、同残土の搬出作業を行っていた別事業場の労働者が運転するドラグショベルのバケットに接触し、意識不明で救急搬送された後、死亡したものの。	030201	6	1～9
2022	7	14 ～ 16	民家の建設工事に付随した民家の庭を舗装する工事現場の片付け作業をしていた際に、被災者がホイールローダーに乗って幅3.7m（アスファルト舗装部分2.4m）の町道を走行していたところ、脇の用水路にホイールローダーごと転落し、被災者はホイールローダーのヘッドガードの下敷きになり、胸部圧迫による窒息が原因で死亡したものの。	030209	1	10～ 29
2022	8	14 ～ 16	採石場内において、被災者は、採石した後の穴へ残土を埋めるため、ブルドーザーを運転していた際、何らかの原因により、転落したものとみられる。その際、被災者は、頸部を負傷し脊髄を損傷し、病院にて入院加療中であったが、多臓器不全により死亡したものの。	040302	1	1～9
2022	12	14 ～ 16	ドラグショベルをトラック荷台に積み込んだ後、ドラグショベルの位置を微調整するために荷台上で単独で運転操作を行っていたところ、ドラグショベルもろとも荷台から転落した。被災者は車外に投げ出された後、転落してきたドラグショベルの下敷きになり死亡した。	040301	1	10～ 29
2021	1	22 ～ 24	集落の除雪を行うため、トラクター・ショベルを駐車している私有地に到着したものの、積雪が50cmのため社有車を駐車することができなかったことから、トラクター・ショベルを使用して私有地の除雪を行い、最後に私有地の出入口付近を除雪するため後進してきたトラクター・ショベルに、何らかの理由で後方にいた被災者がひかれたものの。	30199	6	50～ 99
2021	2	6 ～ 8	被災者が事業場敷地内（屋外）を暖機運転を行うため重機が置かれている場所に徒歩にて移動中、背後より、他の労働者が運転し前進中であるホイールローダーにひかれたものの。	150102	7	10～ 29
			事業場内において、作業員が運転するトラクター・ショベルが石状の			

2021	2	14 ～ 16	原料を計量ホッパーに投入するため後退したところ、その後ろにいたフォークリフトに接触し、フォークリフトが横転したことにより、フォークリフトの運転者がフォークリフトの下敷きになったもの。	10909	6	30～ 49
2021	6	10 ～ 12	事業場敷地内において、同僚の運転するトラクター・ショベル（車両系建設機械、機体質量11t）が通過した後に、うつ伏せになって倒れている被災者が発見されたもの。倒れた被災者の頭部付近の地面には血痕が残っていた。トラクター・ショベルは敷地内の屋内保管ヤードから製品置場に向かってRPF（廃棄物固形燃料）を運搬する途中だった。	150102	7	30～ 49
2021	6	14 ～ 16	被災者は、金属探知機付きベルトコンベヤーが停止したため徒歩で操作室から当該コンベヤーに行き復旧させ、再び徒歩で操作室に戻っている途中、トラクターショベルが通行する通路において走行中（前進）のトラクターショベルにひかれ死亡した。	20201	7	50～ 99
2021	7	8 ～ 10	被災者はビル解体工事現場の地下3階で敷き鉄板の清掃作業に従事していたが、別の作業場所へ移動するため、コンクリートガラの山を徒歩で通過していた。一方、テレスコラムはそのコンクリートガラを掘削するため、アームを地下3階へ下げたところ、被災者はそのバケットに激突されたもの。多発性外傷で死亡が確認された。	30201	6	1～9
2021	7	12 ～ 14	被災者と事業主の2名で、事業場内で刈り取った草を運搬する作業を行っていた。被災者はトラクター・ショベル（ホイール・ローダー）を運転し、刈り取った草を事業主が指定した事業場内の山側まで運搬していたところ、その途中、砂利道の路肩から転落し、約15m下の沢の底まで転がり落ち、当該トラクターショベルと地山の間で被災者の身体が挟まれたもの。	30209	1	10～ 29
2021	7	14 ～	豚舎の底部の取付工事のため、被災者はトラクター・ショベル（機体重量3.1t）を運転して資材を搬入し、作業を終えて坂道を下りようとしたところ、重機が路肩を踏み外し運転していた重機とともに転	30202	1	1～9

		16	落し、運転席外に投げ出されたことで重機の下敷きになり死亡したものの。被災者は、車両系建設機械（整地・運搬・積込み用）の技能講習未修了者であった。			
2021	10	8 ～ 10	発注者の担当者2名が現場確認をする様子を、現場代理人が写真撮影しようと、後ろ向きに下がったところ、下請労働者の運転するドラグショベルが後退しており、右履帯の後方に左足膝下を轢かれたもの。	30199	7	1～9
2021	10	10 ～ 12	事業場敷地内において、同僚労働者がトラクター・ショベルのバケットに製品を入れた状態で運搬用の下り坂道を走行していたところ、前方を歩いていた被災者を前輪で轢いた。	20201	7	10～ 29
2021	11	18 ～ 20	産業廃棄物中間処理施設の汚泥ピット付近において、10トンダンプの洗車作業を行っていたところ、後進中のトラクター・ショベルに轢かれた。	150102	6	10～ 29
2021	12	14 ～ 16	ブル・ドーザーに胸を轢かれた状態で発見されたもの。災害発生時は一人作業で、発生時間や作業内容等は不明。発見時、ブル・ドーザーは、場内の排水路に突入した状態で、エンジンは停止していた。現場内には20～30cm程度の積雪があったことから、除雪作業中に発生したものと思われる。	20201	7	1～9
2020	1	10 ～ 12	製鉄所構内の高炉付近において、ベルトコンベヤから落下し、堆積したコークスの破片や粉じんを、被災者がホイロローダーを運転して集積場所へ運搬する作業を単独で行っていたところ、ホイロローダーを後退させた際に背後にあった常設の階段とハンドルとの間に胸部を挟まれ、死亡したともの。	11001	7	100 ～ 299
2020	2	2 ～ 4	アスファルトプラントに資材を引き取りに行き、ダンプトラックから事務所受付に行くため歩行中に、労働者が運転するバケットに資材を積み込んだ車両系建設機械（トラクターショベル）に轢かれて死亡したものの。	30110	6	1～9
			太陽光発電所建設工事現場の雨水排水工事において、プラスチック側溝を仮置き場から施工箇所付近まで運搬する業務を行っていた際に、			

2020	2	10 ～ 12	施工箇所付近にて不整地運搬車に積まれた側溝をドラグ・ショベルを用いて荷下ろし作業を行うにあたり、被災者が不整地運搬車の後ろで玉掛け用ベルトスリングを持って待機していたところ、近づいてきたドラグ・ショベルと不整地運搬車の間にはさまれ、死亡したものの。	30109	7	1～9
2020	4	10 ～ 12	砂利選別プラントの敷地内において死亡している被災労働者が発見されたもの。被災労働者は、工場長とともに重機の修理作業を行っており、敷地内にある休憩室に一人で部品等を取りに行くために歩いて移動していたところ、同僚の労働者が運転するトラクター・ショベルに轢かれたものとみられる。同僚の労働者はトラクター・ショベルで砂利をホッパーへ投入する作業を行っていた。	20202	6	10～ 29
2020	4	16 ～ 18	産業廃棄物プラントにおいて、エンジンがかかった状態で停止していたトラクターショベルに対し被災者がメンテナンス作業をするため重機左側前輪と後輪の間に入り作業を行っていたところ、別の運転手が被災者に気付かず前進させたため、左後輪に巻き込まれたもの。	150102	7	1～9
2020	5	10 ～ 12	被災者はトラクターに搭乗し、堆肥を散布するスプレッダーという機械をけん引し、堆肥散布作業を一人で行っていたが、作業中にスプレッダーの後輪が側溝に脱輪したため、トラクターショベルでスプレッダーをつり上げようと試みたところ、トラクターショベルが左側に横転した。被災者はキャビンのフレームに右足を挟まれた状態で発見され、当初意識はあったが搬送先で容体が急変し死亡した。	10101	2	10～ 29
2020	6	10 ～ 12	採石場の通路においてホイール式トラクターショベルを走行していたところ、路肩の盛土を乗り越え、機械とともに約31.6m下の防災池に墜落したものの。法面を滑落中に、被災者は運転席から投げ出されており、災害発生約2時間30分後に池中で発見され、死亡が確認された。	20201	1	10～ 29
			ブル・ドーザー（15トン）のオペレーターとして入場していた被災者が、運転席から無限軌道上に落下、そのまま無限軌道に運ばれ、ブ			

2020	6	0 ～ 2	ル・ドーザーの下敷きになり、死亡したものの。被災者は後方でドラグショベルを運転していた作業員に声をかけるため、キャビンを開放し、運転席から立ち上がり、身を乗り出した状態で、運転しながら、後方に向かって声を出していたところ、バランスを崩し、無限軌道上に落下したとされる。	30106	7	30～ 49
2020	8	10 ～ 12	作業員5名が漁港での昆布の洗浄作業を行っていたところにトラクター・ショベルが暴走して突っ込み、労働者2名を含む計4名の作業員が被災。労働者の内1名が死亡したものの。災害発生当時、漁港では他に数名の作業員が昆布の洗浄作業に従事していた。	70201	7	1～9
2020	8	12 ～ 14	公園運動場の水害による汚染土壌を掘削する工事現場において、被災者は、トラクター・ショベルを運転して、小高く盛られた地山に掘削残土を運んでいたところ、地山の肩からトラクター・ショベルごと転落し、翌日、死亡したものの。	30199	1	1～9
2020	11	14 ～ 16	被災者はトラクター・ショベルのバケット及びリフトアームを稼働させる各シリンダの油圧ホースの交換を行っていた。左右にあるリフトシリンダの油圧ホースを交換した後、ダンプシリンダの油圧ホースを交換するため、車両前面の点検口より油圧ホースの取り外しを行っていた際に、リフトアームが下降し、リフトアームと車両本体との間に上半身をはさまれたものの。	80209	7	1～9
2020	11	10 ～ 12	被災者は、災害復旧護岸工事でフレコンバックの土のう（高さ1m、重量1t程度）に玉掛けするため、ドラグ・ショベル（クレーン機能なし、総重量15t）のオペレーターに合図をし、バケットを被災者の頭上位置に停止させた。被災者の玉掛け開始後、オペレーターが足に痛みを感じて腰を上げた際に左袖がブームのレバーに触れ、安全レバーのロックをかけていなかったため、バケットが急降下し、被災者の頭部に直撃しはさまれた。	30107	7	1～9
		10	ゴルフ場の芝かす置き場において、被災者はトラクターショベルを用いて芝かすの山を敷き均し作業を行っていたところ、当該機で坂道を			50～

2020	11	～ 12	後退中に後輪が路肩から脱輪して転落し、運転席から投げ出されて当該機の下敷きとなり死亡したものの。	140301	1	99
2019	1	2 ～ 4	被災者は、船倉で壁の石炭をかき落としていたところ、後退してきたブル・ドーザーに激突され、死亡した。	50202	6	10～ 29
2019	2	12 ～ 14	林道開設作業において、掘削作業箇所の立木の根が浮いた状態であったため、前方（木を倒す方向）の確認を行い、油圧ショベルのバケットで押して倒したところ、被災者に倒した木があたり死亡したものの。	60201	6	30～ 49
2019	3	8 ～ 10	工場敷地内の塀の入替工事現場で、塀の取り外し及び撤去作業をドラグショベル（機体重量3 t未満）を用いて行っていた。被災者はドラグショベルを運転し結束した部材をバケットに付属しているフックに掛けて吊り、約15 mほど後退した後旋回して部材を下ろそうとしたところ、機体がバランスを崩して転倒し被災者の頭部がブームと地面近くの配管との間に挟まれ被災したものの。ドラグショベルは移動式クレーン仕様ではなかった。	30309	2	10～ 29
2019	3	10 ～ 12	被災者は、前日に降った雨によりぬかるんだ砕石プラント内の土砂（泥状）を除去するため、ホイールローダーを自ら運転作業中、土砂を一旦プラント外へ捨て、再度現場に戻ろうと後進していたところ、当該ホイールローダーの右後輪が地山に乗り上げ車体が傾き、被災者が地面に投げ出された。その後、横転してきたホイールローダーに頭部が挟まれたものの。	20209	2	30～ 49
2019	5	8 ～ 10	豪雨災害により発生した路面の土砂および山腹を切り取りした後の土砂をダンプトラック1台、ドラグショベル1台により搬出する作業を事業者と被災者の2名で行っていた。事業者がダンプトラックで土砂を残土場に運搬し戻ってきた際、盛土した法肩から谷方向へドラグショベルと共に約25メートル転落していた被災者を発見したものの。	30106	1	1～9
			コークス工場にある「ガイド車」のレールが敷設されている「プラッ			

2019	6	4 ～ 6	トホーム」(幅約3m)において、そこに落ちているコークス屑の撤去作業をトラクターショベル1台を用い、被災者を含む5名で行っていた。プラットホーム中央に掻き寄せたコークス屑をトラクターショベルで掬い上げ、後退していたところ、その後部にいた被災者が轢かれた。	150109	7	10～ 29
2019	8	14 ～ 16	工場(屋内)において、機体重量3トン以上のホイールローダーで、丸太(直径36～40cm、長さ3～4m、約20本)を運んでいたところ、工場内を歩いていた被災者をひき、死亡させたもの。	10401	6	50～ 99
2019	9	10 ～ 12	被災者は屋内の鶏糞保管施設においてトラクター・ショベルを運転中、鶏糞で成形した道の下り坂(傾斜角11度)で高さ1.7～1mの路肩からトラクター・ショベルとともに転落したもの。なおトラクター・ショベルのバケット内は空荷であった。被災者の傷病名は脳挫傷、傷病部位は左側頭部。被災者は一人で作業を行っており被災時の状況を現認したものはいなかった。またシートベルトは装着しておらず保護帽も着用していなかった。	10101	1	300 ～ 499
2019	10	16 ～ 18	被災者は、採石場において、場内を走行していたトラクター・ショベルの進路に立ち込んだため、トラクター・ショベルと接触後その前輪に轢かれたもの。	20201	7	1～9
2019	11	12 ～ 14	一般家屋解体工事現場において、庭石をアームロール車へ積込作業を行っていた際に、0.3tから0.4tの庭石を高さ約2mの位置から荷台へ落下させたことで、荷台後方の扉が押し開いて、近くで交通誘導を行っていた被災者に激突した。被災者は搬送先病院にて同日死亡した。	30209	6	10～ 29
2019	11	6 ～ 8	生コンプラント工場敷地内において、トラクターショベルを使用して作業中であった同僚が、トラクターショベルからドラグショベルに乗り換えるため、トラクターショベルを構内の隅に後進で移動させようとしたところ、近くを歩行中であったコンクリートミキサー車運転手(被災者)に接触して右後輪で轢いたものである。	10901	7	10～ 29

2019	12	8 ～ 10	可燃ごみを廃棄物処分場に持込み、廃棄作業を行っていた労働者が、 廃棄物処分場の労働者が運転するドラグ・ショベルに轢かれたもの。 ドラグ・ショベルにはバックモニターが設置してあり、運転手は後方にいた被災者に気づいていたが、被災者と距離があると思い後退させた。	150103	6	30～ 49
2019	12	6 ～ 8	牛の飼料生産の受託先の敷地内で、トラクター・ショベルでバンカーと呼ばれる飼料置き場の飼料をならしていた際、近くに居た被災者が自分の持ち場に戻っていったところを確認したため、停車させたトラクター・ショベルを前進させたところ、被災者が急に後ろ向きによるめき、後頭部から地面に倒れたため、ブレーキが間に合わず、トラクター・ショベルの右前輪に轢かれ、死亡したもの。	11709	7	30～ 49
2018	1	10 ～ 11	基地において、当該事業場の労働者Aがトラクター・ショベルを用いて、基地内で掘削した土砂等の運搬作業をしていたところ、車両誘導作業をしていた被災者に気づかず後進したためトラクター・ショベルの右側後輪に接触し、巻き込まれたもの。なお、被災者は、入院により継続治療を行っていたが、後日死亡したもの。	150102	6	10～ 29
2018	1	22 ～ 23	被災者は、排雪作業現場で一般車両の交通誘導を交差点の道路上で行っていたところ、被災者の後方から後進してきたモーター・グレーダーが、交差点を後進のまま左折したところ、外輪差のために右側前輪で被災者を轢いたもの。なお、助手席に乗り込んでいた助手が倒れている被災者を発見し、救急車により病院に搬送されたが死亡したものの。	170201	17	30～ 49
2018	2	8 ～ 9	資材置場の地ならし作業をしていたドラグショベルが後退したところ、後ろにいた被災者の左足に激突した。その後病院に搬送されたものの、後日死亡が確認されたもの。	30199	6	1～9
		10	被災者は朝からトラクターショベルを運転し、事業場の敷地の排雪を行っていたが、燃料が少なくなってきたことから、事業場に保管されているポリタンクから燃料を給油するため、タイヤのカバー部分（高			

2018	2	～	11	さ1.56m)に上がり、地上の同僚と給油口の上のカバーを持ち上げた。他の運搬車が入ってきたため、誘導のため同僚が離れたところ、ドスンという音がし、振り返ったところ、被災者が床に倒れていた。	150102	1	10～ 29
2018	3	～	12 13	防波堤拡幅工事現場において、起重機船を使用して海中から被覆ブロックを1個(重量4.0t)を引き上げて防波堤に仮置きした。その後、クレーン機能付きドラグ・ショベル(つり上げ荷重2.9トン)で被覆ブロックを積み上げるため、被覆ブロックをつり上げた状態で後進し、右旋回させたところ、旋回角度が90度付近でバランスを崩し、ドラグ・ショベルとともに海中に墜落したものの。	30111	10	50～ 99
2018	6	～	16 17	造成工事中、スクレイパーの運転手が打ち合わせのため、運転席から降りて履帯の上に立ち、近くにいたブルドーザーの運転手と話をしていたところ、スクレーパーが動き出して履帯から前方に転落し、両大腿部を履帯に轢かれ被災した。現場は下り勾配(約10%)であった。	30109	7	10～ 29
2018	6	～	14 15	スキー場デリジャンス管理用重機道修繕工事において、被災者がブルドーザーを運転し、スキー場下山コースを下山しようとしたところ、コースを逸脱し、コース外へブルドーザーと共に約50メートル転落し、心肺停止の状態で見つされたもの。	30199	1	50～ 99
2018	7	～	8 9	夜間、ずい道掘削を行っていたが、電線の長さが足りなくなったため、予定を変更し、朝から路盤整地等の作業を行うことになった。切羽前に残っていたズリをバックホウで寄せ集め、後方で大型タイヤショベルが待機していた。隣の小型バックホウが物を取りに前へ移動しようとしたため、これを除けようと大型バックホウが斜めに後退した後、前へ進んだ。小型バックホウが後ろへ戻ったところ、被災者が倒れているのを発見した。	30102	7	30～ 49
				被災者は客先の牧場敷地内において自走できる給餌機を修理後、牛舎			

2018	7	12 ～ 13	に戻すため給餌機を運転して敷地内道路を移動していたところ、バ ケットを上昇させたまま走行してきたトラクター・ショベルに激突さ れ、給餌機の機械操作レバーに頭部が刺さり死亡したもの。なお、ト ラクター・ショベルの運転者は牧場事業主の親族であった。	80209	6	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	現場（個人宅庭木剪定作業）で出た枝葉を、会社敷地隣接の山林にあ る仮置場に保管する為、トラックから降ろした枝葉約1.5立米を、 トラクターショベル（機体重量：2585Kg）で押していたとこ ろ、左側に転倒し、被災者の頭部がトラクターショベルのヘッドガー ドの支柱と地面の間に挟まれ被災したもの。	30199	2	10～ 29
2018	7	10 ～ 11	建物（鉄骨造）の解体作業中、天井板等をパワーショベル（機体重量 1.5t、ヘッドガードなし）で落としていたところ、天井材等がパ ワーショベルのアーム部分に崩れ落ち、バランスを崩して側方に横転 し、投げ出された被災者が柱（鉄骨）とパワーショベルの間に挟まれ た。	30199	2	10～ 29
2018	9	6 ～ 7	災害発生事業場は土木工事を請け負う事業場。被災者は事業場敷地内 でダンプカーの荷台にドラグショベル（機体重量2.57t）を積み 込もうとしていた。ドラグショベルを自走して乗せるために 荷台へ 前進 ブームを左旋回 その後急にブームを右旋回した。そのため、 ドラグショベルがバランスを崩して横転し、被災者は地面とドラグ ショベルのヘッドガードとの間に上半身を挟まれて死亡したもの。	30106	1	1～9
2018	10	16 ～ 17	道路維持修繕業務の一環として、台風の影響により道路上に飛散した 枝葉等を（ホイール式）トラクターショベルを用いて除去していたと ころ、ガードレールが設置されていない路肩から崖下にトラクター ショベルごと転落したもの。	30106	1	1～9
2017	1	12 ～ 13	タイヤ会社において、荷物搬送用エレベーターの点検作業を行ってい た被災者が搬器の上端の梁と2階エレベーター出入り口部の上部との 間に上半身と右足を挟まれた状態で発見された。	170201	7	10～ 29
			ガソリンスタンドの敷地内において、労働者がトラクターショベル			

2017	2	10 ～ 11	(機体重量3トン以上)を運転して、寄せ集められた雪を4トントラックへ積み込む作業を一人で行っていた。その作業中、トラクターショベルを後退させた際にガタンという音がしたため、運転席から降りて確認したところ、仰向けで地面に倒れている被災者を発見した。	150102	7	100 ～ 299
2017	5	12 ～ 13	トラクター・ショベルを使用したハッチ(子牛を飼育する木製の小屋)の移動作業において、トラクター・ショベルのバケットを上げ、ハッチをバケットから吊り下げた状態で走行していたところ、タイヤが何かに乗り上げた感触があり、運転者はトラクター・ショベルを停めて、運転席から降りトラクター・ショベルの左側を見ると被災者が倒れているのを発見した。	70101	7	10～ 29
2017	6	10 ～ 11	再生砕石である路盤材の置き場において、路盤材に混入している異物を除去する作業を行っていた被災者が、後進してきたトラクター・ショベル(機体重量3トン以上、バケット容量3m ³)の右後方タイヤに轢かれた。	150102	7	1～9
2017	7	8 ～ 9	物流倉庫内に積まれた粉末の飼料を移動させるため、一番高い位置に上げたトラクターショベルのバケットを降下させている時に、近くにいた被災者が運転席前方に入り込み、アームとショベルカー本体に胸を挟まれた。	50202	7	1～9
2017	7	12 ～ 13	ほ場区画整理工事現場において、被災者はブル・ドーザー(機体重量7トン)を運転し整地作業中、エンジンを掛けた状態で運転席を降り左側クローラの上に立ったところ、ブル・ドーザーが後進し被災者は地面に墜落、クローラに轢かれた。	30109	7	30～ 49
2017	9	8 ～ 9	ドラグ・ショベル(以下、「重機」という)にて、残土置き場(高さ約10m)の整地作業中、重機のクローラの真下にある土砂が沈下して重機が傾いた際に、被災者が運転席から投げ出されるとともに重機が横転し、重機の下敷きとなり死亡した。	30199	2	10～ 29
			作業場に仮置きしてある鋼製の箱(幅61cm、奥行91cm、高さ62cm)に資材を収納するため、事業者がドラグ・ショベルを運転			

2017	10	6 ～ 7	して、玉掛用具によりつり上げて箱を移動させようと、箱の上方にバケツを移動させ、被災者の指示によりバケツを下降させたところ、被災者の頭部にバケツが当たった。なお、被災者は保護帽を着用していなかった。	11209	6	1～9
2017	10	12 ～ 13	自社倉庫内において、大型トレーラーにバラ積みされた粉殻を下ろし、ホイール式トラクター・ショベルを使用して当該粉殻を倉庫奥に押し込む作業が行われていた。被災者は別の大型トレーラーの運転手であり、倉庫の外で順番待ちをしていたが、何らかの理由により倉庫内に歩いて進入したところ、後進してきたホイール式トラクター・ショベルの後輪に轢かれた。	40301	7	10～ 29
2017	10	10 ～ 11	機体重量3.65tのブルドーザーを使用して整地作業を行っていた被災者が、整地箇所から農道へ通じる傾斜11°程度の仮設の通路において、当該ブルドーザーのクローラーの下敷きになっているところを発見された。	30109	6	10～ 29
2017	10	8 ～ 9	被災者は、収穫された甜菜を輸送するダンプトラックの運転手である。積み込み先農家の畑内において、他事業場の労働者が運転する専用バケツを装着したホイール式トラクター・ショベルでダンプトラックに甜菜を積み込む作業中、当該ショベルの前方にいた被災者が地面にこぼれ落ちた甜菜を拾おうとしたところ、バケツを下げながら前進してきた当該ショベルのバケツの下敷きとなった。	40301	6	10～ 29
2017	11	12 ～ 13	被災者が、売却予定であったブルドーザーの燃料をトラックの荷台に置かれたドラム缶に移す作業を行っていたところ、ブルドーザーが動きだし、ブルドーザーの左後方角とトラックの左側ドアの間に挟まれた。	30106	7	10～ 29
2017	12	20 ～ 21	構内において、被災者がコンクリートミキサー車の洗車のため通行していたところ、他の構内下請事業者の労働者が運転するトラクター・ショベルにはねられた。	40301	7	10～ 29

2017	12	10 ～ 11	被災者をホイール式トラクター・ショベルのバケットに乗せ、倉庫の外壁を張る作業を行っていた際に、同機械の運転者が同機械を後退、被災者がバランスを崩しバケットから墜落したところへ同機械を前進させたため、被災者の頭部をタイヤで轢いた。	170209	1	50～ 99
2016	1	16 ～ 17	道路の舗装工事で路盤整正作業中に、傾斜している道路の山側にモーターグレーダーを停車させ、運転手が運転席から降りた後、谷側の作業の様子を見に行った時に、モーターグレーダーが斜面を逸走し始め、谷側で作業をしていた労働者を轢いて付近の空き家に衝突して止まった。	30106	7	10～ 29
2016	1	9 ～ 10	土地造成工事において、ブル・ドーザーの運転手が、前日駐機していた場所から指示された作業箇所に走行中、深さ約1.2メートル、法面勾配約40度の道路敷設予定の掘削部に降りた際、運転席より車外に転落し、同機の履帯（クローラ）に巻き込まれた。同ブル・ドーザーは無人のまま約86メートル自走し、電柱に衝突し停止した。	30199	7	30～ 49
2016	2	9 ～ 10	電気操作室内のストーブへの灯油供給に伴い、被災者は、ポリ容器内部の汚れを灯油で落とし、これを廃棄するためプラント作業場に立入っていたところ、同僚の運転するトラクターショベルに轢かれ、頭部挫滅により死亡した。	20201	7	10～ 29
2016	3	13 ～ 14	被災者と同僚2名がブル・ドーザーの運転席以外の場所に乗車し、土場から地拵作業現場（尾根付近）まで移動した。作業現場に到着した当該ブル・ドーザーが、帰路に向けて方向転換するために旋回し後退した時、ブル・ドーザー後部（ウインチ部）に乗車中の被災者が、降車し又は振り落とされたため、後退中のブル・ドーザーに轢かれた。	60209	7	1～9
2016	5	22 ～ 23	道路工事のトンネル内において、坑口から760m地点で被災者が発破後の切羽の状況を点検した後、切羽から坑口に向かって歩いていたところ、切羽から坑口方面に後進してきたホイールローダに轢かれた。	30102	7	30～ 49
		14	個人住宅の外構工事において、道路から約3mの高さにある宅地面ま			

2016	5	～	15	でドラグショベルを移動するため、斜面を自走で登っていたところ登りきれず、斜面の途中で上部旋回体を旋回させたところ横転した。	30199	2	10～ 29
2016	6	～	10	9 タイヤショベルでコンクリート塊（ガラ）を移動させている時、敷地内に設けた池（水深約3メートル）にタイヤショベルとともに転落した。	10909	1	1～9
2016	6	～	15	14 堆肥回収のため、トラクターショベル（機体重量：5.8t）にて堆肥舎から前方道路に向かって左折し、直進しようとした際、当該道路を堆肥舎へ向かって歩いていた被災者と激突した。	70101	6	30～ 49
2016	7	～	14	13 下請として施工中の解体現場から搬出された家屋廃材等を4t車（アームロール）により、事業場に搬入した。所定の位置にダンプアップにより廃材を降ろした後、車両から降り荷台のあおりを閉める作業を行っていたところ、他の作業者が運転するホイールローダーが後進してきたため、被災者は車両荷台とホイールローダーの後部に挟まれた。	30209	7	10～ 29
2016	9	～	14	13 被災者は、タイヤショベルのオペレーターである。盛土した作業用通路（長さ約10m、幅員約5.5m、高さ約1m）を空荷で後進中、左後輪が路肩から逸脱して横転、約1m転落したタイヤショベルの運転席フレーム部分の下敷きになった。	30109	1	30～ 49
2016	11	～	14	13 被災者と事業主の2名で、当該事業場と事業主自宅を兼ねる敷地内の庭において、顧客に見せるための庭を整備中、被災者が飾り用の古木をワイヤーで玉掛けした後、事業主がドラグショベルを運転し当該古木を一本吊りで吊上げ移動させた際に、吊上げた古木が立木に衝突して古木先端部が折れ、これが飛来し被災者の頭部に激突した。	30109	4	1～9
2016	12	～	19	18 被災者は、除排雪業者の雪捨て場において、ダンプトラックにて雪を運び込み排雪後、ダンプトラックから降車していたところ、雪ならしのため後進してきたトラクターショベル（除排雪業者）の右後方に激突された。	80409	6	1～9

2016	12	15 ～ 16	バックホーを使用して、現場に運び込まれた盛土を掘削箇所に埋め戻し作業中、手前側の盛土をすくうため、重機を移動させたところ、重機の近くにいた作業員が重機に接触し、轢死した。	30201	6	1～9
2015	12	11 ～ 12	会社の敷地内で、建築資材の整理作業において事業主がトラクター・ショベル（機体重量3.36T）により建築廃材をコンテナに積込みし、同ショベルを後進した時に、木片の盛りに混じったゴミを拾おうと被災者が同ショベルの後側に立ち入ったために、同ショベルに轢かれたものである。	30199	7	10～ 29
2015	8	19 ～ 20	事業場内において、粒度分別用の網（重さ1トン）の補修作業を行うため、トラクターショベルのバケットの爪で網の端部を引っ掛けてつり上げ、網をほぼ垂直に立て、網の下部を地面に降ろした状態で番線の増し絞め作業を行っていたところ、バケットの爪から網が外れ、被災者の方に倒れて下敷きになった。	80109	5	10～ 29
2015	4	16 ～ 17	法面工事に使用したラス金網の余剰分（500kg）をドラグショベル（機体重量4.5t）の爪でつり上げ、工事現場内の重機用進入路（傾斜角18～30度）を前つりで走行（下り）していたところ、機体が前のめりに転倒し、運転席から投げ出された被災者がドラグショベルのアームの下敷きとなったもの。	30106	2	50～ 99
2015	1	16 ～ 17	接岸中の貨物船の船倉内において、石炭をブル・ドーザーにより集める作業を行っていた被災者が、1.4mの落差のある箇所を走行した際にブル・ドーザーの運転席から投げ出された。ブル・ドーザーはそのまま走行し続けたため、被災者は再度運転席に戻ろうとし、その際に履帯（クローラ）に巻き込まれ、下敷きとなり、全身を圧迫され死亡したものの。	50202	7	100～ 299
2015	12	14 ～	被災者は、トラクター・ショベルのバケットに水300リットル入りのタンクと噴霧機械が入った金属枠を載せて、これをトラックに積み込むためにバケットを持ち上げたところ、機体が前輪を支点にして前のめりになったため、バケットが機体から外れ、その反動で後輪を支	150102	6	10～

		15	点にして前輪が浮き上がり、さらに前輪を支点にして後輪が浮き上がる動作を繰り返す中、被災者が運転席から投げ出され、機体左前輪の下敷きとなったもの。			29
2015	5	8 ～ 9	被災者等6名は、船舶にカンラン岩を積み込むため、岸壁側に移動式のコンベヤーを設置する作業を行っていたが、設置したコンベヤーの位置を修正することとなり、下請け事業場の作業者がコンベヤーに乗っている架台の後方をトラクターショベルのバケットで持ち上げて、そのまま後方に移動させたところ、近くを歩行していた被災者がコンベヤーの架台の車輪にひかれて死亡した。	50202	7	50～ 99
2015	9	17 ～ 18	高速道路建設工事に付帯する周辺道路の舗装工事において、作業場所から現場詰所までの下り坂間で右曲がりカーブの箇所にホイールローダが転倒し、当該ホイールローダのヘッドガードと地面の間に運転していた被災者の頭部が挟まれた状態で発見され、病院に運ばれたが約1時間後に死亡したもの。	30106	2	10～ 29
2015	12	11 ～ 12	伝票を受領するため、砕石工場敷地内にダンプカーを止め、当該敷地内事務所へ徒歩で向かっていたところ、後進して荷（山砂）を運んでいた、砕石工場のトラクター・ショベルに轢かれ死亡したものである。	40301	7	10～ 29
2014	1	11 ～ 12	資材置場にて、船と呼ばれる生コンクリートを入れる鉄製の箱をドラグ・ショベルを使用してトラックに積み込んだ後、ドラグ・ショベルを運転していたところ、トラックの荷台にいた被災者にドラグ・ショベルのバケットが激突した。	30199	6	10～ 29
2014	1	16 ～ 17	製品（コンクリート製マンホールボックス、直径1.75m、組立高さ3.0m、総重量5.2t）の納入先にて、被災者は、製品の据え付け箇所下部（地上から約3.0m下）に降り、不良箇所を補修していたところ、上部にて別の作業を行っていたドラグ・ショベルが転落し、押し倒された製品と法面の間に頭部及び胸部を挟まれた。	10901	5	50～ 99

2014	1	10 ～ 11	プラントにて、被災者の同僚作業員がトラクター・ショベル（機体重 量5250kg）を運転して堆肥（残渣と牛糞）を混合させる作業を 行い、被災者はトラクター・ショベルの後方でスコップを使用して堆 肥の後始末をしていた。同僚作業員がトラクター・ショベルを後退さ せたところ、後方にいた被災者に気がつかずに轢いてしまった。	11709	7	1～9
2014	2	14 ～ 15	産業廃棄物の中間処理を行う事業場敷地内にて、木製の廃材を集積さ せる為に車両系建設機械（トラクターショベル）を使用していたとこ ろ、付近で当該廃材を搬入してきたトラック及びトラクターショベル を誘導していた被災者が、トラクターショベルと激突し死亡した。	150102	6	1～9
2014	2	17 ～ 18	雪堆積場にて、被災者はブルドーザーを操作し、雪をステージ（排雪 ダンプが搬入した雪を降ろす場所）付近から雪山の頂上まで押し上げ て移動させていた。頂上付近まで押し上げたため後退（進行方向の斜 度17度、法肩方向の斜度8度）していたところ、横滑りして雪山の 法肩から斜面を1回転しながら21m滑落し、キャビンの中で頭部を 強打した。	30199	1	1～9
2014	3	8 ～ 9	トラクター・ショベルで除雪作業中、雪を用水路に捨てようとしたと ころ、トラクターショベルごと用水路に転落し、下敷きになった。	80204	1	1～9
2014	3	17 ～ 18	被災者は、砂採取場にて、ドラグショベルで掘削した土石をブルドー ザーで押していたところ、ブルドーザー直下の地盤が崩落し、崩落し てできた穴に転落。転落した衝撃でブルドーザーの外に投げ出され、 上半身が土砂に埋まり、窒息死した。	20202	1	10～ 29
2014	3	17 ～ 18	被災者は、港岸壁にて、客先の船が商品である土を積み込んだ際、こ ぼれ落ちた土をホイールローダーで集積する作業をしていた。その 後、岸壁付近の海中から被災者が乗った状態のホイールローダーが発 見された。	80109	1	1～9
		10	コンクリートブロックをドラグ・ショベルで吊り上げ、ダンプに積み 込む作業中、ブロックにワイヤーロープを掛けようとしていた際、被			

2014	8	～ 11	災者が転倒したところ、ドラグ・ショベルの運転手が操作を誤り、バケットとブロックの間に被災者が挟まれ、頭部を負傷し、死亡した。	30199	6	1～9
2014	8	～ 14	ブルドーザーを使い押土作業中、ブルドーザーから転落し、クローラに腹部を強打した。	30106	3	50～ 99
2014	10	～ 14	13 法面の立木の伐採を行うため、林道上にて、ドラグショベルを後進させたと 14 ころ、林道路肩より35m下の沢にドラグショベルごと滑落。 外傷性多発により死亡した。	30106	1	10～ 29
2014	10	～ 12	11 同僚が、プラントにて、トラクター・ショベルを運転し、砂利等の運 12 搬作業を行っていた際、通路上に被災者がいることに気が付かず、接 触し、地面に倒れている被災者が発見された。	20202	7	1～9
2014	10	～ 9 10	構内にて、被災者が、20メートル程離れた場所にいたドラグ・ショベル オペレーターに作業開始の合図を送っていたところ、トラク ター・ショベルオペレーターが、後方に被災者がいることに気付か ず、車両系建設機械を後退させ、被災者が轢かれ、死亡した。	10909	7	1～9
2014	11	～ 17 18	ホイールローダーをトラックの荷台に載せるため、トラックの荷台後 部に道板を掛け、被災者がホイールローダーを運転し、道板上を後進 で上っていたところ、前輪が脱輪したため、ホイールローダーが転 倒。被災者は、転倒から逃れようと運転席から離れたが逃げ切れず、 被災者はヘッドガード部分の下敷きとなった。	40301	6	1～9
2014	11	～ 16 17	16 雑木の伐採及び集積作業中、被災者が運転するトラクターショベル 17 が、橋に設けていたガードレール及びガイドパイプを突き破り、下の 川に転落、横転した。	20201	1	10～ 29
2014	11	～ 13 14	13 ゴルフ場にて、ブルドーザーで走行路の整地作業中、ブルドーザーと 14 ともに路肩から斜面を転落。反転したブルドーザーの下敷きになっ た。	140301	1	30～ 49
			船積設備の地下通路（高さ約1.4m）の埋戻し作業を、ミニドラ			

2013	7	16 ～ 17	グ・ショベル（機体重量870kg）を運転して行っていたところ、地下通路の天井とミニドラグ・ショベル運転席の安全バーに首を挟まれた。	30209	7	10～ 29
2013	3	10 ～ 11	機体重量約17トンのトラクター・ショベルを使用し、長さ約4メートルに切断した木材のカットマスと呼ばれている仮置き場から第一工場まで木材を運び、方向転換しようとしてバックで走っていたところ、作業場にいた被災者に激突した。	10401	6	300 ～
2013	11	16 ～ 17	河川の築堤工事現場において、場内にあった4tダンプのバッテリーが上がっていたため、同場内のブルドーザーをダンプに横付けし、お互いのバッテリーをケーブルで繋いでいたところ、ブルドーザーが突然後退し、ブルドーザーの左クローラー後部で作業を見ていた被災者が轢かれた。なお、ブルドーザーはエンジンをかけたままであった。	30199	7	10～ 29
2013	10	16 ～ 17	道路建設工事現場において、ブルドーザーを運転していた被災者は、ブルドーザーとともに路肩から約3.5m下の地面に転落し、ブルドーザーの下敷きとなった。	30106	1	10～ 29
2013	4	13 ～ 14	被災者は、廃車を処理する作業場にて、乗用車1台を運搬中のトラクター・ショベルにひかれて死亡した。	150103	7	50～ 99
2013	7	20 ～ 21	被災者は、スラグを積んで走っていたホイールローダーの左前輪に右下半身を轢かれた。尚、被災者が当時何の作業していたのか不明である。	11009	6	50～ 99
2013	10	13 ～ 14	事務所から出た被災者は、自分の運転するダンプに戻ろうとしたところ、前進してきたトラクターショベルに頭部をひかれ死亡した。	40301	3	1～9
		9	被災者らは、賃貸住宅新築現場において、被災者を含めた4名にて敷地内の低地を水平に均すため、同僚作業員が0.5?のドラグショベルで盛り土をし、被災者が0.2?のドラグショベルの排土板で均す作業			

2013	11	～	10	を行っていた。その際、被災者が均し作業のためドラグショベルを前進させたところ、同僚労働者が操作するドラグショベルが盛り土をしようと旋回してきたため、そのバケットが被災者の左側頭部に激突した。	30201	6	1～9
2013	7	～	11	砕石プラント敷地内において、トラクターショベルにより通路の整地作業が行われていた際、その後方を作業員が横断し、後退してきたトラクターショベルに轢かれた。	20201	6	10～ 29
2012	3	～	9	資材置き場において、被災者が一人で積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t、4 t ロング）の荷台後部に架けた登坂用足場板（アルミブリッジ）2本を使用し、トラクターショベル（機体重量1,975kg）を後進させて同荷台に積み込む作業を行っていたところ、荷台後部にあった同トラッククレーンのジブ先端に激突し、ジブ先端と同ショベルのハンドルとの間に胸部を挟まれた状態で発見された。	30199	3	10～ 29
2012	5	～	18	当日の収穫場所である畑から、別の畑へホイールローダーを運転して市道を移動中、約70 c m下の畑へ転落したもの。体を投げ出され、ヘッドガードと地面の間に胸を挟まれ、救急搬送先の病院で肺圧迫のため死亡が確認された。	60101	17	1～9
2012	6	～	10	大雨の影響で土砂崩れが発生し、鶏が水を飲むためのパイプが詰まったため、トラクターショベルにより土砂の除去作業を行っていたところ、バケットに入れた土砂の重量でバランスを崩し、横転。オペレーターであった被災者は、トラクターショベルの下敷きとなり死亡した。	70101	2	10～ 29
2012	11	～	14	土砂置場で、ダンプカーの運転手である被災者は、同僚の労働者が運転するドラグ・ショベルに轢かれた。	30199	7	1～9
2012	11	～	8	客先事業場木材チップ仮置き場において、被災者はトラックにて木材チップを搬入した後、トラックを降りて木材チップ仮置き場に行き、チップサンプルを採取していたところ、客先労働者が運転し、後進し	150102	7	10～ 29

		9	ているトラクター・ショベルに轢かれた。			
2012	2	13 ～ 14	被災者はドラグ・ショベルの運転手とともに重さ約800kgの敷鉄板を移動させる作業を行っていた。運転手がドラグ・ショベルにて敷鉄板を吊上げ、コンクリートブロックに立てかけ、次に被災者が敷鉄板に掛けられていた玉掛ワイヤーを外していたところ、運転手が当該ワイヤーを外し終わったと誤認し旋回したため、敷鉄板が被災者の方に倒れ、下敷きとなり死亡した。	10909	5	1～9
2012	7	21 ～ 22	ノロ処理場において、被災者は冷却後のノロを移動するためトラクター・ショベル（機体質量9,150kg）を運転し、駐機場から処理場に移動した。同僚がラガー車でノロを運んできた際、ノロ冷却に使用した水を貯めておくピットにトラクター・ショベルが転落しているのを発見し、被災者を捜索したが発見できないため警察に連絡。警察等が被災者を発見したが、既に死亡していた。	50101	1	30～ 49
2012	11	13 ～ 14	被災者単独で、ドラグ・ショベルを用い法面の掘削作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルもろとも転落した。	30108	1	1～9
2012	4	14 ～ 15	農業用水路の配管設置工事の一環として、深さ1.68mの農業用水路内で小型バックホウの排土板を用いてバックで運転しながら用水路の底の堆積物を寄せ集める作業を行っていたところ、用水路に渡された梁に背中を押される格好で、梁と小型バックホウの運転席との間に挟まれた状態で同僚の労働者に発見され、外傷性窒息により死亡した。	30199	7	1～9
2012	11	14 ～ 15	枯れ松の伐倒及び搬出作業において、チェーンソーにて伐倒した松の木の幹にワイヤーロープを玉掛けし、ワイヤーロープの他端をトラクター・ショベル（機体重量2.3 t）のバケット上面に溶接止めしたフックに掛け、被災者がトラクター・ショベルを後進させて伐倒木を運搬していたところ、トラクター・ショベルの機体が傾いて転倒し、当該トラクター・ショベルの下敷きとなった。	140301	2	30～ 49

2012	10	17 ～ 18	飼料畑にて、被災者はトラクターショベルで堆肥をならす作業をしていたところ、当該敷地に隣接し約2m下にある畑に重機ごと転落し、重機に挟まれ骨盤等の複雑骨折により死亡した。	70101	1	1～9
2012	9	9 ～ 10	砂利の混合作業を行うため、トラクターショベルをバック走行で作業場所に向かっていたところ、砂利を野積みする場所を写真撮影するために後方を歩いていた被災者に気づかずに轢いてしまった。	80209	7	1～9
2012	12	8 ～ 9	高さ約1mの残土の上でブルドーザーを運転し残土の均し作業に従事していた被災者が、意識不明の状態で見守りしていた周囲の地面の上に倒れているのが発見され、搬送先の病院で死亡した。なお、発見時、被災者が運転していたブルドーザーは残土から約30mほど離れた場所に停止していた。	30199	1	50～ 99
2012	6	11 ～ 12	被災者は前日の台風により地山の一部（傾斜20度）が崩壊したことに伴う復旧作業を行っていたところ、自身が運転するホイールローダーが何らかの原因により転倒し、被災者が車体から投げ出された後、当該ホイールローダーと地面との間に挟まれ、死亡した。	140301	7	30～ 49
2012	9	16 ～ 17	キノコ栽培で使用が終わったおがくずをトラクターショベルを使用して掻き上げた。作業終了後、トラクターショベルの置き場に戻る途中の作業道（下り坂）にて、当該トラクターショベルが横転した。	60101	7	10～ 29
2011	2	12 ～ 13	スキッドステアローダー（小型車両系建設機械：ホイール式トラクターショベル）の走行装置の修理作業中、運転席から身を乗り出すような姿勢で立ち上がったときに、アーム上下操作の左ペダルを踏んでしまい、アームが上昇して、アームのバケットシリンダー部分とヘッドガード上部に頭部を挟まれ、脳挫傷により即死した。なお、災害は修理依頼に伴い熊本県へ出張し現地修理作業中に発生した。	80209	7	1～9
2011	6	15 ～ 16	採石場内において、被災者は、トラクター・ショベルを使用し、道路脇に崩落した土砂の除去作業終了後、当該機械を土砂崩壊場所から採石場内の砂利置き場へ移動させる際に、当該機械とともに砂利置き場から崖下へ約20m転落し、死亡した。	20201	1	10～ 29

2011	4	14 ～ 15	河川改良工事（総延長15m、高さ約1.8m、河川両岸のブロック壁設置）において、バックホー（総質量3.24t、バケット容量0.09）を使用して、コンクリートホッパー（容量0.3m ³ ）をワイヤ吊りし、河床へ下ろしていたところバックホーが転落し、河床にいた満15歳の労働者の背部にアームが激突、下敷きになり死亡したものの。	30101	4	1～9
2011	2	17 ～ 18	木くず破砕チップの積込み作業を行うために事務所の北側から当該積込み作業場所へ向って走行していたトラクターショベルに、場内を歩行中の被災者が上半身を轢かれたもの。	20201	7	10～ 29
2011	9	14 ～ 15	台風の影響により荒廃した治山工用道路の復旧作業を、他の作業員と別れ一人でトラクター・ショベルを運転して行っていた被災者が行方不明となったため、同僚らが捜索したところ路肩から約35m下の崖の中腹に被災者が倒れていた。トラクターショベルは更に下方の沢に転落していた。現場の状況からトラクター・ショベルが路肩を乗り越え、勾配48度の崖を転落し、被災者が途中で運転室から投げ出されたものと推測される。	30106	1	30～ 49
2011	11	16 ～ 17	被災者は、トラクターショベルにて砂利等の運搬作業を行い、作業が終了したため以前原石の貯蔵タンクとして使用していたサイロの下部（高さ約2m、幅約5m、奥行き約5m）にトラクターショベルを片付けようと後進したところ、天井から突き出しているダクトに運転座席が激突し、そのまま運転座席とハンドルの間にはさまれ、窒息により死亡した。	20201	7	10～ 29
2011	11	15 ～ 16	被災者は1人でトラクタ・ショベルにて、3次側プラントのコンベアの下にたまった落鉱を1次堆積場の山の上に降ろし、バックで山の上からスロープを下る際に、左後方の法面に左後輪が乗り上げ、車体がバランスを崩し、右側に転倒した。トラクタ・ショベルはスロープ下の地面に転落し、運転していた被災者は運転席から落ち、転倒したトラクタ・ショベルの左側面と地面との間に挟まれ、8日後に死亡し	20201	1	10～ 29

			た。			
2011	3	8 ～ 7	ブルドーザーを運転して、仮設道路（幅5.2m）を後進し、高さ1m、奥行約4mの盛土を乗り越えようとしたところ、運転していた被災者が後ろ側に投げ出され、そのまま進んできたブルドーザーの下敷きになった。	30199	7	1～9
2011	3	8 ～ 7	資材置場において、現場で使用するコンクリート製側溝（高さ約1m、長さ2m、重さ約1t）をドラグ・ショベルを使用してダンプトラックの荷台に積み込む作業を行う際、被災者が2段重ねた側溝の1段目の上にあがり、ワイヤロープに手を掛けているときにつり上げを行ったところ、つり上げた側溝の上部が顎に当たり、1段目の側溝の中央にある開口部から地面に墜落した。	30110	6	1～9
2011	12	4 ～ 5	新聞配達中、後退してきた除雪車（トラクターショベル）に轢かれた。	80205	17	50～ 99
2011	3	10 ～ 11	被災者は、自社の所有する山林において、木材の運搬業務のため、トラクター・ショベルを運転し同材を牽引していたところ、運搬中の斜面でトラクター・ショベルのクローラーに轢かれ倒れているところを、共に作業していた事業主に発見されたもの。トラクター・ショベルは、斜面を逸走して沢に転落し、エンジンがかかった状態で発見された。	60209	7	1～9
2011	5	16 ～ 17	港に停泊中の貨物船からのフレコンバック（内容物石灰、重量約1t）の荷降ろし作業（トラッククレーンで船から港に降ろし、トラクター・ショベル（アタッチメントはフォークに交換）で保管場所に運搬する）において、同僚と2人でハッカーからフレコンバックを外し、トラクター・ショベルに取り付けたフックにフレコンバック2つを取り付けていた被災者が、トラクター・ショベルにひかれて倒れているところを発見されたもの。	40301	7	10～ 29
			被災者は、砂利プラントにおいて、トラクターショベル（機体重量1			

2011	8	11 ～ 12	4. 36 t) を運転し、骨材原料の原石を原石山の下部から山の上部へと運搬する作業を1人で行っていたところ、同僚の作業員が原石山の山腹にある幅3 m、傾斜角11度の斜路の側方下部3 mのところに180度転倒し、運転席が潰れているトラクターショベルと共に運転席の中の被災者を発見したもの。なお斜路の一部は崩壊していた。	20202	1	1～9
2010	11	15 ～ 16	被災者は同僚とともにゴミ処理施設で粗大ゴミの処理作業にあっていた。被災者がトラクターショベルを運転し、樹木などのゴミをバケットに積み込み、可燃ゴミ用のピットに落とす作業を行っていたところ、トラクターショベルがピット方向へ暴走し、高さ約30 cmの車止めを乗り越え、ピット内に重機ごと転落した。その後、消防隊により救出されたが、搬送された病院で死亡が確認された。	150103	1	10～ 29
2010	11	13 ～ 14	河川の災害復旧工事で、碎石を詰めたホッパーをドラグ・ショベルのバケットのフックにワイヤロープを掛けて吊り上げ、旋回した際、ワイヤロープがフックから外れ、被災者の上に落下したもの。	30107	4	1～9
2010	10	10 ～ 11	貸し出していた機体重量1.6 tのドラグ・ショベルを返却の際、2 tトラックから乗降台に降ろしたあと、乗降台のスロープを使って地上へドラグ・ショベルを移動中に乗降台からドラグ・ショベルごと横転したもの。	80409	1	1～9
2010	10	8 ～ 9	被災者は、河川の護岸工事において、ドラグ・ショベルのバケットに乗り型枠組立作業中、同ショベルの運転手が着ていた合羽が旋回操作レバーに引っ掛かり、バケットが振れ、墜落した。墜落箇所の鉄筋が左胸を貫通し、出血により死亡したもの。	30107	1	10～ 29
2010	9	11 ～ 12	石炭バースに停泊している船舶の石炭の積み卸し作業が終了し、ハッチ内のトラクターショベルをクレーンにより陸揚げするために、トラクターショベル運転者である被災者がバケットを水平位置まで上げ、エンジンをかけたまま運転席を降り、アームの下に入って玉掛けを行おうとしていたところ、バケットが下降し、アームと機体フロント部の間に頭部をはさまれ死亡したもの。	50202	7	1～9

2010	8	16 ～ 17	被災者は林道開設工事において、ドラグショベルを使用した掘削作業に従事していた。掘削する箇所へ向かい斜面を登っている途中に路肩が崩れ、重機ごと20m下の溪流へ転落した。運転手は運転席の中で全身を強く打ち死亡した。	30106	1	30～ 49
2010	7	16 ～ 17	大雨の影響で鶏舎横の裏山が崩れ土砂が鶏舎横に堆積していたため、被災者がトラクターショベルを使用して崩れた土砂を除去していた。夕刻になり帰宅中の従業員が土砂の運搬を行っていた箇所の法面下に重機が横転しているのを確認したが被災者の姿が見あたらないため帰宅した。翌日になっても、重機が横転したままになっていたため、重機の下を確認したところ、被災者が下敷きになっているのが発見された。被災者がトラクターショベルの運転操作を誤り、法面から重機が転落し、その下敷きになったものとみられる。	70101	7	10～ 29
2010	7	8 ～ 9	事業場構内において、社員駐車場から構内事務所に歩いて向かう際、構内にて、協力会社の労働者が運転していたタイヤショベルの運転席の死角になり、バケットに接触して転倒した後、左後輪に下半身を轢かれたもの。搬送先病院にて同日に亡くなったもの。	10901	6	10～ 29
2010	6	9 ～ 10	事業場が管理する道路（こう配約10度、幅約10mの舗装路）の中央付近に落下していたコンクリート塊をトラクター・ショベルを使用して撤去する作業中、下り方向へ後進させたところ、路肩から車両とともに約30m下の斜面へ転落した。誘導者はいなかった。	150102	1	10～ 29
2010	6	13 ～ 14	S造2階建ての建築物の解体工事現場において、解体粉碎した瓦礫の選別作業を行っていた被災者が、後退してきたドラグ・ショベルのキャタピラに下半身を轢かれ、搬送先の医療機関で死亡したもの。ドラグ・ショベルの運転手が後方の被災者に気付かなかったもの。	30309	7	10～ 29
2010	5	17 ～	被災者は、夕方から事業場の資材置き場において、ホイール式トラクターショベル（機体重量2.6t）を運転し、1人で盛土用通路の均し作業を行っていた。作業中、後進させながら右旋回しようとしたところ、右後輪が盛土に乗り上げたため同トラクターショベルが横転	30199	2	10～ 29

		18	し、運転席から投げ出された被災者が同トラクターショベルの下敷きとなって死亡したものの。			
2010	5	14 ～ 15	中型貨物自動車の後部で荷おろし作業中、後退してきたトラクターショベルとの間に挟まれ、死亡した。	30209	6	10～ 29
2010	3	9 ～ 10	被災者は、2 tトラックを運転し、業者へ碎石を購入に行き、トラックを構内に進入させ、業者の労働者が運転するトラクターショベル（車両重量16 t）による碎石の積み込みを終えた。そして、トラックから降りて積み荷の状況を確認していたところ、後方確認不足のまま後退してきた当該トラクターショベルに激突され、トラックとの間に挟まれた。	30199	6	1～9
2010	2	15 ～ 16	被災者と計測者で誘導柱の基礎の高さを計測した後、被災者は、重機（ドラグショベル）の横を歩いていた時、重機の運転者は被災者がいることに気付かずに重機を移動させたため、重機の履帯に被災者の左足が轆かれた。被災者は、病院で手術を受け治療中であったが、19日後に死亡した。	30199	7	10～ 29
2010	1	8 ～ 9	トラクターショベルを用いて事業場敷地内の除雪作業中、同僚に声をかけられキャビンから身を乗り出した際、アーム上昇ペダルを踏み込んでしまい、上昇したアームとキャビンフレームの間に首を挟まれ、死亡した。	120102	7	100 ～ 299
2010	1	4 ～ 5	委託された除雪に使用するためのタイヤショベルの右前輪が、空気が抜けてパンクしたような状態であったため、事業場にあったエアークンプレッサーにより空気をタイヤに充填中に当該タイヤが破裂し、その衝撃により死亡したものの。他に修理業者の従業員がそばにいて被災したが、軽傷である。	30199	15	10～ 29
2009	4	13	市道路上を車両系建設機械（タイヤショベル：機体重量1,600kg）のバケットに土を入れて運搬していたところ、当該機械が横転し、運転し	10109	2	1～9

		14	ていた被災者がその下敷きとなった。			
2009	9	7 ～ 8	湾の水温、酸素濃度等を測定するため、台船（15m×36m）上において、ドラグ・ショベル（機体重量15.3t）を用途外使用して、A重油が入ったタンク（1.5m×1.6m×1.5m、約2.5t）をつり上げて、旋回した際にドラグ・ショベルが転倒し、運転していた作業者と海に転落した。災害発生の約1時間後に運転者が海から引き上げられたが、死亡が確認された。	30109	1	10～ 29
2009	8	14 ～ 15	2tダンプで採石を積みに行った際、荷台の幌を立てていたところ、後進してきたショベルに激突された。	30110	6	30～ 49
2009	7	16 ～ 17	田畑のかさ上げ作業において、ダンプトラックで運搬してきた土砂をドラグ・ショベルの排土板を使って均していたところ、ダンプトラックの荷台のあおり上に残っていた土砂を取り除いていた被災者が前進してきたドラグ・ショベルのバケットとダンプトラックのあおりの間にはさまれた。	30109	7	1～9
2009	3	11 ～ 12	工場内コンクリートプラントの骨材（砂利・砂）ヤードにおいて、当該ヤードに隣接する砂利をストックしておく場所の区画塀を形成するコンクリートブロック（1辺92cmの正方形、重さ約1.7t）を同僚が操作する車両系建設機械（トラクター・ショベル）を用いて積み換え作業中、3段目に積んだ当該ブロックが落下して被災者が下敷きとなった。	10901	4	10～ 29
2009	6	14 ～ 15	被災者が、系列会社の採石場内にある産廃施設でコンクリートと金網の分別作業を行っていたところ、碎石を運搬してきた採石場のトラクター・ショベルにひかれた。	30106	7	10～ 29
2009	12	13 ～ 14	事業場の作業場においてドラグ・ショベルの運転席の屋根の上に上り当該ドラグ・ショベルの清掃作業を行ったあと、当該場所からカウンターウエイ上へ降りようとしたところ足を滑らせ2.7m下の地面に墜落した。	30199	1	10～ 29
			アスファルトガラを処分するため、3tダンプでアスファルト混合所に			

2009	6	14 ～ 15	入場し、所定の場所へアスファルトガラを搬出後、被災者がダンプから降りて荷台後方で作業していたところ、混合所場内でガラ等の整理作業をしていたトラクター・ショベルがバックしてきて、ダンプ荷台とトラクター・ショベル後部との間にはさまれた。	30106	6	1～9
2009	9	16 ～ 17	被災者は、トラクター・ショベルが構内でバケットを上げ、運転者が運転席で待機している状態で停車していたため、当該トラクター・ショベルのバケットと車体本体の間にあるヒンジ部にグリスを注入する作業を始めたが、運転者は被災者が当該箇所で作業していることに気が付かず、トラクター・ショベルを前進させたため、左前方車輪にて被災者をひいた。	10804	7	1～9
2009	12	9 ～ 10	下水道工事に使用する砕石を土場に山積みし仮置きしていたが、砕石の山が広がってきたことから、ドラグ・ショベルを使用して山周囲の掻き揚げ作業を行っていたところ、運転していたドラグ・ショベルが前のめりに転倒し、運転者が被災した。	30110	2	50～ 99
2009	3	13 ～ 14	躯体解体工事完了後の土間コンクリート上で、土間上の砕石をドラグ・ショベルで集積作業中、近くで掃き掃除を行っていた解体工が後進するドラグ・ショベルのクローラにひかれた。	30209	7	10～ 29
2009	10	10 ～ 11	本事業場はコンクリート廃材等を粉碎処理して、砂利等に加工し、舗装材として出荷する事業場であり、被災者は、加工した砂利から異物を除去する作業に従事していた。被災者が作業場所内を移動していたところ、砂利等を出荷するためダンプ自動車への積載作業を行っていたトラクター・ショベルと接触し、左後輪にひかれた。	11709	6	10～ 29
2009	2	16 ～ 17	民間発注工事の商業用地開発造成工事において、砕石を車両系建設機械（ブル・ドーザー）で敷き馴らし作業を行っていた被災者が、後進していた車両系建設機械のクローラの下敷きになった。当該機械は進行方向に止めてあったダンプに衝突し停止した。	30199	7	10～ 29
		7	畑の改良工事において、被災者はブル・ドーザーにエンジンオイルを注入後、自らエンジンをかけた。ギアが後進（2速）に入り、また、駐			30～

2009	8	～ 8	車ブレーキを引いていなかったため後進し、クローラとステップ等との間に巻き込まれ、地上に墜落した。	30199	7	49
2009	5	～ 15	鉄筋コンクリート廃材から再生資材を製造する作業において、被災者は、プラントで小割りされた廃材から鉄筋を取り除くため、トラクター・ショベルが地面に広げた廃材から鉄筋を拾い集める作業に従事していたところ、廃材を広げるためにプラントから後進してきたトラクター・ショベルの左後輪にひかれた。	150102	6	30～ 49
2009	4	～ 15	自社車庫の組立て作業において、代表取締役がトラクター・ショベルを運転してバケットを地上から約4.2mの高さにセットした。これに被災者が梁を伝って乗り移り、屋根部材の垂木設置作業を行っていたところ、地上に墜落した。作業にあたり作業床の設置、安全帯の使用等の墜落防止措置は講じられていなかった。	40301	1	1～9
2008	9	～ 17	酪農従事者が車両系建設機械を運転中に行方不明となり、上司がキャベツ畑で発見した。牧場内の道路路肩から、勾配35度の斜面を14mほど滑落していた。	70101	1	1～9
2008	3	～ 10	採砂場の緑化復旧工事において、ドラグ・ショベルを運転して法面成形の作業を行っていたところ、足元の路肩がくずれて重機ごと16m下方まで転落した。被災者は運転室内で身体を強く打ち死亡した。	10901	1	10～ 29
2008	1	～ 19	被災者は業務終了後、車の中に鍵をつけたまま施錠したことに気づき、ディーラーが来るまで駐車場で待っている際、倒れているところを発見され、死亡が確認された。直前に現場を通過したショベルカーのタイヤ及びバケットに血痕が発見されたため、通過した時刻等から当該ショベルカーにひかれた。	11001	6	50～ 99
2008	8	～ 13	ドラグ・ショベルを作業現場に移送する途中、橋上を自走していたところ、橋（幅2m（最大2m40cm））から約8m下の谷底へドラグ・ショベルと共に墜落した。	170209	1	1～9
			週明け以降の作業に備えて事業場所有地にトラクター・ショベルを移			

2008	10	10 ～ 11	動させるため、事業場資材置場からトラクター・ショベルをトラックに積み込み、土捨場に向かった。土捨場に到着し、一人でトラクター・ショベルを荷台から下ろそうとしていた時、あるいは、下ろした後にトラクター・ショベルが転倒してヘッドガードの支柱の下敷きになった。	30109	2	1～9
2008	4	13 ～ 14	河川敷内の資材置場において、勾配5度の通路上で被災者がトラクター・ショベルを操作して整地作業を行っていた。トラクター・ショベルが路肩の段差部分で脱輪したために機体のバランスが崩れて被災者とともに転落した。被災者は横転したトラクター・ショベルの下敷きとなった。	30199	1	1～9
2008	10	15 ～ 16	作業員2名にてトラクター・ショベルの修理中、バケットを上げて既設の擁壁上にバケットの左端部分を載せ、被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットの間に立ち、ボンネット内の電気系統の機械（メインコントロールバルブ）の取り外し等をしていたところ、擁壁からバケットが落ち、ブームが降下して被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットにはさまれた。	11701	7	10～ 29
2008	8	13 ～ 14	敷地内の牛舎から肉用牛が排泄した糞を運び出す作業を行うため、被災者がトラクター・ショベルを運転して、片側が下り斜面となっている舗装された幅2.5m、下り勾配約6～9度の私道を後進していたところ、路肩の高さ4.6mの箇所から右後輪が脱輪してトラクター・ショベルが転覆・横転して投げ出された被災者が、法面下にある事務所の壁と転覆したトラクター・ショベルの間にはさまれた。	70101	1	1～9
2008	3	9 ～ 10	地すべり対策工事現場で、同僚1名と工事現場への仮設道路の碎石敷設作業を行っていた。被災者はドラグ・ショベルを運転して仮設道路の下り坂をバックして降りようとしたところ、仮設道路が鉄製ロードマット敷き、さらに、降雨により滑りやすい状態であったため、クローラが滑り仮設道路からドラグ・ショベルごと転落した。	30108	1	10～ 29
		17	産業廃棄物の積換え保管場所において、トラックで運搬されてきた産			

2008	6	～	業廃棄物の分別作業を行っていたところ、後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	150102	7	1～9
2008	6	～	ブル・ドーザーの履帯と乗降ステップとの間に身体がはさまれて即死の状態で見られた。発見時、パーキングブレーキがかけられておらず、原動機も止められていない状態であり、排土板は地上におろされていた。作業場所は10度程度の勾配があり、排土板が地面を後退しながら掻いた痕が約3mの距離で認められた。	20201	7	10～ 29
2008	1	～	トラクター・ショベルの現場出張修理を事業場の駐車場で行っていた時、トラクター・ショベルの下にもぐって作業をしていた被災者が、突然動き出したトラクター・ショベルの下敷きになった。	11701	7	1～9
2008	10	～	ドラグ・ショベルのバケットを交換するためにドラグ・ショベルを後進した際、ドラグ・ショベルの脇に停車していたダンプトラックから降りていた被災者をひいた。	30106	7	10～ 29
2008	8	～	ダンプトラックで運搬してきた廃棄物を建屋内に一時保管するため、トラクター・ショベル（機体質量10.5t）で山状に積み上げる作業中に路面に散乱した廃棄物をスコップで掻き取る作業を行っていた被災者が、後退してきたトラクター・ショベルにひかれた。	150103	7	30～ 49
2008	11	～	間伐作業現場において、ブル・ドーザーを使用して傾斜地で集材作業中、被災者が斜面上の伐倒木2本にスリングワイヤーをそれぞれ巻き付け、ウインチワイヤーにつないだ後、待避してからブル・ドーザーの運転手に待避と巻き取りの合図を行った。運転手がブル・ドーザーのウインチを操作して伐倒木を引き上げたところ、途中にあった根に伐倒木の1本が引っかかり、被災者の待避場所方向へ倒れ被災者に激突した。	60201	4	10～ 29
2008	9	～	被災者は、構内において同僚と2名で製品の間に挿入する栈木をフォークリフトの後部に載せる作業を行っていたところ、皮はき後の原木を自動送材式帯のご盤まで運搬するために後進してきたタイヤショベル（四輪駆動、フォーク装着）とフォークリフトの後部にはさまれ死亡	10401	7	1～9

			した。			
2008	8	11 ～ 12	ダンプトラックが運んでくる土砂をブル・ドーザーで単独で均す作業を朝7時頃から行っていた。ブル・ドーザーを後進させている途中に運転席（キャブ）から転落して、クローラとブル・ドーザー本体の間にはさまれて死亡した。	20202	7	10～ 29
2007	11	10 ～ 11	採石場でトラクター・ショベルを運転中、左カーブの下り坂（勾配10～18度）を曲がらず直進し、高さ13.2m、勾配55度の法面を転落、トラクター・ショベルの下敷きになった。	20201	1	1～9
2007	1	9 ～ 10	共同牧場において、牧草地の改良を目的とした肥料散布の作業を行うにあたり、被災者が車両系建設機械（掘削用）を運転し、肥料12袋をモッコに入れ、それをバケット裏のフックに掛けてつり上げ、肥料散布箇所へ運搬するため、約25度の傾斜地を走行中、当該機械が転倒し、被災者が当該機械と地面にはさまれた。	170209	2	10～ 29
2007	9	8 ～ 9	道路建設工事において、油圧ショベルのバケットに縁石を積んで移動し、次の積み込み場所で油圧ショベルを停止しようとしたとき、ペダルの下に物がはさまっていたため油圧ショベルが停止せずに左側に旋回し、被災者をひいた。	30106	7	1～9
2007	6	14 ～ 15	道路修繕工事現場において、機体重量3.2tのドラグ・ショベルを運転し舗装路の均し作業を同機を後退させながら行っていたところ、同現場の交通誘導の業務に就いていた被災者が同機のクローラにひかれ、死亡した。	170201	7	10～ 29
2007	6	9 ～ 10	畑の造成現場において、ブル・ドーザーを用いて土砂の押土作業を行っていたところ、路肩付近から土砂を押し出した際に路肩から斜面（高さ約4.5m、法長9.7m）を1回転しながら転落した。	30109	1	1～9
2007	10	15 ～ 16	町道の拡幅工事において、コンクリートブロック（幅41cm、奥行き27cm、高さ30cm、重量41.2kg）を路側に積む作業をするにあたり、車両系建設機械（機体重量2.8t、バケット容量0.11立方メートル）でコンクリートブロック7個をつり上げて運	30199	1	1～9

			搬し、機体を旋回したところ、バランスを崩し、転倒した。			
2007	10	11 ～ 12	学校新築現場において車両系建設機械を用いて鉄板を移動させていた（つり上げによる作業）。この時、オペレーターが一時的に運転室から身を乗り出して安全確認を行ったが、操作レバーに服が引っかかり不意に機体が旋回して、被災者に鉄板が激突した。	30201	6	10～ 29
2007	2	14 ～ 15	国道拡幅工事現場において、ブル・ドーザーを後進させているとき、ブル・ドーザーから転落してひかれた。	30106	7	1～9
2007	1	8 ～ 9	社長がドラグ・ショベルを運転し、事業場内のガラを片付けていたところ、倒れている被災者を発見した。被災者は手に箒とちり取りを持っており、着衣にはドラグ・ショベルのクローラの跡がついていた。	30309	7	1～9
2007	5	16 ～ 17	事務所から資材置場に出かけた被災者がなかなか戻ってこないので社長が様子を見に行ったところ、ホイールローダーに乗った被災者が以前から積み上げていた木材との間にはさまれているところを発見した。	30202	3	1～9
2007	1	13 ～ 14	被災者は、下水道工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量2.04t）を運転中、運転席の右窓開口部から身を乗り出したところ、運転席右側にあるドラグ・ショベルアームが上昇し、キャブフレームとアームとの間にはさまれた。	30110	7	10～ 29
2007	1	11 ～ 12	フォークローダーを運転して廃材の整理をしていた被災者が、窪地で重機ごと約5m転落して、重機と岩の間にはさまれた。	30199	1	10～ 29
2007	1	7 ～ 8	合材センターのアスファルト材・コンクリート材置場において、被災者が、アスファルト材を積んだダンプトラックの誘導を終えた後、コンクリート材を積んだ2tトラック誘導のため、コンクリート材置場に走って向かっている際に、後退しているトラクター・ショベル（建	10909	7	1～9

			設機械)を横切ったために、トラクター・ショベルにひかれた。			
2007	5	8 9	被災者は、鶏舎内に山積されている鶏糞（鶏糞にもみがらとおがくずが混ざったもの）をトラクター・ショベルを使用して、トラックに積み込む作業をしていた。他の従業員が当該鶏舎の中に入ったところ、鶏舎天井の梁とトラクター・ショベルの運転席ではさまれている被災者を発見した。	70101	3	1～9
2007	2	16 17	区画整理地内の区画道路上で、被災者がブル・ドーザー（機体重量7.75t）を用いて路盤材の敷き均し作業を行っていたが、エンジンを停止させないまま降りたところ、ブル・ドーザーが後進した。これを停止させるために運転席に乗り込もうとしたが転倒し、ブル・ドーザーの排土板にはさまれた。	30199	7	10～29
2007	9	7 8	被災者は、自社の別工場に出張し、砂利選別プラント点検修理のため、必要となる手工具を持ち出し、歩いて修理場所まで戻る途中、前進するトラクター・ショベルにひかれた。なお、トラクター・ショベルの運転者は、被災者が100mほど手前で車両の進行方向と対向して歩いていることを目視で一度確認していたが、被災者が見当たらないことに気づき、運転席から後方確認したところ、ひかれた被災者を発見した。	20202	7	1～9
2007	5	15 16	被災者が解体された建物のガラの分別作業を行っていたとき、ガラの搬出作業のため後進してきた重機（アタッチメントにコンクリート破砕機を装着したもの）にひかれた。	30209	7	1～9
2007	4	10 11	制御盤に警報が出たため、被災者が警報箇所の点検に向かう途中、無水石膏倉庫に向かっていたホイール式トラクター・ショベルの右側を併走し、トラクター・ショベルの運転者が左折して倉庫に入るため、小回りのきかないトラクター・ショベルを右に膨らませたところ、被災者を前輪及び後輪でひいてしまった。	10909	7	10～29
		9	トラクター・ショベルの運転手が傾斜地にトラクター・ショベルを停車して降りたところ、急にトラクター・ショベルが後退したため、こ			

2007	4	～	10	れを当該運転手が止めようとしたが、静止し切れずに当該トラクター・ショベルとその後退先にあった2 tトラックとの間にはさまれた。	10909	7	30～ 49
2007	12	～	13 14	ブル・ドーザーで碎石をならしていたところ、運転手が逸走（後退）してきたブル・ドーザーにはねられた。	30106	7	1～9
2007	5	～	9 10	墓石の土台を作成するために、小型ハンドガイド式不整地運搬車を用いて生コンクリートを後ろ向きにて運んでいた。方向転換を行ったところ背面にあった他家の墓石と小型ハンドガイド式運搬車にはさまれた。	30209	7	1～9
2007	9	～	17 18	被災者がストックヤードにてコンクリート等再生骨材の中に混入しているプラスチック等の異物を取除く作業を行っていた際、車両系建設機械により骨材のかき揚げ作業を行っていたオペレーターが被災者に気付かずバケットで被災者を押し倒したまま再生材に押し付けさらにその上からバケット内の再生材をかけ埋めてしまった。被災者は自力で這出しその後病院へ搬送されたが死亡した。	80109	6	1～9
2007	6	～	7 8	車両整備会社に整備依頼していたブル・ドーザー（4 t）を引き取るため、トレーラー（8 t）で乗り入れ荷台に積み込んだものの、積載位置が悪く荷台上にてブル・ドーザーを前後進させたところ、高さ約1.2 mの荷台からブル・ドーザーとともに転落横転し、その際被災者がコンクリート地面とブル・ドーザーの運転席左側面付近との間にはさまれた。	30109	1	10～ 29
2007	5	～	16 17	2台のドラグ・ショベル（1台はクレーン機能付き）を使用して土嚢の撤去作業及び河川部の整地作業を行っていた。土嚢の撤去作業の手元作業していた被災者が移動した際に整地作業用のドラグ・ショベルの死角に入り、ドラグ・ショベルが移動した際にひかれた。	30107	6	1～9
				2日前の大雨による林道の崩落や路肩崩壊箇所の修正作業をトラク			

2007	9	13 ～ 14	ター・ショベルを用いて行っていた被災者が、林道山側の崩落土砂をトラクター・ショベルで谷側に押し出す際、トラクター・ショベルと共に路肩から転落した。トラクター・ショベルは約60m下の沢に転落し、被災者は転落途中にトラクター・ショベルから放り出された。	60201	1	1～9
2007	10	11 ～ 12	砂利砕石プラント構内でトラクター・ショベルの運転者は、土砂をバケツに積載し堆積場所に沿って左カーブを前進走行中、左後輪に衝撃を感じたため、左後方を確認したところ、仰向けに倒れていた被災者を発見した。	10909	7	10～ 29
2007	8	8 ～ 9	被災者は、合材工場内において、アスファルト骨材（砂利）の水分量検査に必要となる試料採取のため、ストックヤード付近を歩行していたところ、ストックヤードからコールドホッパーに骨材を投入していたトラクター・ショベルが後進した際にひかれた。	170209	7	1～9
2007	12	11 ～ 12	被災者は、道路建設工事現場においてアスファルト舗装を行うため、道路隅に木製の型枠材を敷き並べる作業を行っていたところ、被災者の前方より後進してきたモーター・グレーダーの左後輪にひかれた。	30106	7	10～ 29
2007	11	7 ～ 8	工事用資材の運搬用に使用する林道（延長557m）の除雪作業がホイール式トラクター・ショベルにて行われた後、当該林道から路外に転落しているショベルが発見され、被災者（オペレーター）を救出したが、死亡した。	30108	1	100 ～ 299
2007	3	17 ～ 18	被災者が一人で敷地内にある雪をトラクター・ショベルを使って除雪作業中、バケツと車体の間にはさまれた。	80202	7	1～9
2006	12	14 ～ 15	被災者はトラクター・ショベルを運転して林道上に堆積している落葉をかき集めていた。ある程度、落葉が溜まったので空き地に落葉を集積した。そのとき、被災者は集積した落葉を押し固めようとして一旦後退したところ、道路幅約4mのガードレールが設置されていない箇所より、トラクター・ショベルと共に47m下の谷に転落した。	30199	17	10～ 29

2006	4	13 ～ 14	農地造成等工事において、単独で作業を行っていた被災者が、ブル・ドーザーを運転し、傾斜地で後進したところ、ブル・ドーザーごと転落し、運転席から放り出され傾斜地で転落したブル・ドーザーに潰された状態で発見された。当該ブル・ドーザーは転落後に、後進状態のまま現場に隣接する道路に逸走した。	30109	1	1～9
2006	11	9 ～ 10	当該事業場構内のヤード部分（敷地約5,760平方メートル）をトラクター・ショベルにて除雪作業中、同ショベルのバケット先端部分が、ヤード中央を横断して設置されている排水溝（幅約49センチ、金属製の格子状の蓋がかぶさっているもの）の縁に引っ掛かったため、その衝撃で車体後部が約130センチメートル浮き上がり、被災者が運転席のハンドル部分に激突した。	10401	3	10～ 29
2006	11	13 ～ 14	県道バイパス工事に伴う交差点改良工事において、ブル・ドーザーによる路面の敷きならし作業中、ブル・ドーザーが後進していたところ、ショベルを持って敷きならし作業を行っていた被災者をクローラーの端で轢いた。	30106	7	10～ 29
2006	10	16 ～ 17	建設機械（トラクター・ショベル）の後方に給油車を止め建設機械に給油作業を行っていた被災者が、後退した建設機械と給油車との間に挟まれた。	80204	7	1～9
2006	10	14 ～ 15	砂利プラントの原石ホッパーに通じる傾斜路法面下にトラクターショベルが仰向けに転落していることに同僚労働者が気づき、近づいて運転席を確認したところ、閉じ込められている被災者を発見した。	20202	1	10～ 29
2006	9	11 ～ 12	伐木、玉切りした松（全長2.2m、直径45cm、重量214kg）にワイヤロープで玉掛けし、ホイール式トラクターショベル（機体重量2.1t）のバケットでつり上げ運搬していたところ、ワイヤロープが切断し、約25°の斜面でトラクターショベルが横転し、運転していた被災者が投げ出されて下敷きとなった。	140301	1	10～ 29
		13	町有林の地拵作業において、レーキ・ドーザーを傾斜約40度の斜面に停車させ、斜面に降りて、同僚二人と枝をレーキ・ドーザーの前に			10～

2006	9	～ 14	集めていた被災者が、再びレーキ・ドーザーに乗り込もうとクローラーの上に乗った際に、レーキ・ドーザーが逸走して轢かれた。	60209	7	29
2006	9	～ 11	被災者は、単独で整地用車両系建設機械を運転し、盛土の整地作業に従事していたところ、高さ2メートルの土の法肩が崩れて、被災者は運転していた整地用車両系建設機械と共に地上に転落し、運転席と地面との間に挟まれた。	30109	1	10～ 29
2006	4	～ 12	採石場構内通路（斜路）において、被災者が運転する4 tトラックが構内通路の斜路を上っていたところ、上方から下ってきたトラクター・ショベルと正面衝突し、トラクター・ショベルのバケットが4 tトラックの運転席を押しつぶした。	20201	6	10～ 29
2006	4	～ 20	トラクターショベルを移送するために、荷台傾斜式貨物自動車（セルフローダー）の荷台を傾斜させて積載後、被災者が荷台後部で道板の収納作業をしていたところ、荷台に積載したトラクターショベルが動き出し、被災者がひかれた。	40301	7	10～ 29
2006	4	～ 14	被災者自身が重機を運転して、平屋建の鶏舎の鶏糞除去作業を同僚2名と行った。作業が終了したので、鶏舎出入口より重機を搬出するため、出入口（地面より約30 cm高い）に道板をかけて重機を運転しながら出ようとしたところ、前輪が浮いたために車体も浮き上がり、そのときに鶏舎出入口に被災者が激突した。	10101	3	50～ 99
2006	2	～ 17	林道開設工事に従事していた被災者が、法面に吹き付けられたモルタルのかすをトラクターショベルで集める作業中、反対側の谷にトラクターショベルごと転落した。	30106	1	1～9
2006	1	～ 8	被災者は除雪助手としてモーターグレーダーで深夜の市道除雪作業を終え、車両基地に戻った。グレーダーから降りる際1.4 m下の圧雪路面に転落した。帰宅したが痛みがひどいため整形外科を受診し自宅に戻り休んでいたところ、夜になって不調を訴え救急搬送。手術を受け治療を継続したが死亡した。	30199	1	10～ 29

2006	1	10 ～ 11	被災者は、採石場内で土砂の積込みを終えたダンプトラックの荷台の土砂をスコップを使い押し固めていたところ、方向転換のために後退してきた採石作業に従事するトラクター・ショベルのカウンターウエイト部分とダンプトラックとの間に挟まれ、死亡した。	30106	6	1～9
2006	1	8 ～ 9	ほ場造成工事現場内の平坦な場所において、被災者がブル・ドーザーを用いて整地作業を行っている際、運転席より左側に転落し、自らが運転する当該機械の左側履帯に巻き込まれ、被災した。	30199	7	1～9
2005	6	9 ～ 10	建築工事現場において、ブル・ドーザーで整地作業を行っていたところ、ブル・ドーザーが後方にあった高さ35cmのコンクリート擁壁を乗り越えて1.5m下の歩道に転落し、被災者が運転席より投げ出されたところを転落してきたブル・ドーザーにひかれた。	30209	1	10～ 29
2005	9	10 ～ 11	県道の舗装工事現場において、路面を掘り起こす作業を行っていたモーター・グレーダーが後退した際、路肩付近で交通誘導を行っていた被災者が引かれた。	170201	7	10～ 29
2005	3	14 ～ 15	トラクター・ショベルで舗装されていない道路を整備中、路肩から5m下の杉林に転落し、トラクター・ショベルの下敷きとなった。	150102	1	30～ 49
2005	5	11 ～ 12	貨物船から杉チップの水切り作業中、船倉内の杉チップ上を走行中のトリミング・ドーザーが下り坂で前方に傾き、運転中の被災者が運転席から機体前方に投げ出されクローラでひかれた。	50202	7	100 ～ 299
2005	6	13 ～ 14	砂防工事において、法面を下降中に、建設用機械とともに転落し、機体と破損したヘッドガードとの間に挟まれた。	30106	1	1～9
2005	3	16 ～ 17	溶銑予備処理場において、溶銑運搬用列車の軌道上に積もったスラグをスコップで除去していたところ、走行してきたトラクター・ショベルにひかれた。	11001	7	1000 ～ 9999
		9	土取り場構内においてトラクター・ショベルを運転し、土取り場道路			10～

2005	2	～	補修等の作業中、道路路肩からトラクター・ショベルとともに5.6m下に転落し、トラクター・ショベルの下敷きとなった。	10909	1	29
2005	2	～	山腹に配水池を建設する現場において、ホイールローダで斜面（斜度26度）をバックで下ろうとしたところ、ホイールローダが暴走、横転し下敷きとなった。	30110	2	10～ 29
2005	2	～	ブル・ドーザーで下り坂を除雪して、坂を戻ろうとバック走行中、運転席上でバランスを崩してブル・ドーザーから転落した。その後さらに、ブル・ドーザーは後退を続けたため、被災者は運転席に乗り移ろうとしたが、再度転倒し、ブル・ドーザー後方から巻き込まれ引きずられた。	30106	7	1～9
2005	10	～	国道交差点改良工事において、歩道の仮舗装のため、ダンプトラックが碎石を降ろした箇所でトンボにより整正していたところ、直ぐ横で整地業務を行っていたドラグ・ショベルが後進してきて、被災者と接触した。	30106	6	30～ 49
2005	12	～	道路除排雪作業を、ブル・ドーザーを使用して行っていたところ、後退時に誤って市道の側溝に車体の左側全体を落とし、その際、側溝に転落した。	30199	1	1～9
2005	3	～	産業廃棄物中間処理を行う工場内において、廃棄物の第1次仕分け作業終了後、第2次仕分け作業を行う残渣をトラクター・ショベルにより収集作業中、後退してきたトラクター・ショベルにひかれた。	150102	6	50～ 99
2005	11	～	砂防工事中、トラクター・ショベルにより、斜面（傾斜角10度）の下方から上方へ土砂運搬作業を行っていたところ、当該機械が横転し、運転手が当該機械の下敷きとなった。	30108	2	30～ 49
2005	10	～	コンクリート製品製造工場において、作業終了後、コンクリートミキサーを洗浄し、出た水やガラをトラクター・ショベルでガラ捨て場に捨てようとした際に、トラクター・ショベルごと水深1.8mのため池に転落した。	10901	1	1～9

2005	6	11 ～ 12	製鋼工場において、破碎機にかけるスラグが工場内の通路に落ちていたので、これを拾おうとした被災者がトラクター・ショベルから通路に降りたところ、同僚が運転する他のトラクター・ショベルにひかれた。	10909	7	10～ 29
2005	11	19 ～ 20	山林内でショベルカーを運転し、遊歩道を整備しているとき、ショベルカーが法面を8m転落し、ショベルカーの下敷きとなった。	140101	1	50～ 99
2005	3	11 ～ 12	国道の歩道改良工事において、ホイールローダーを使用し採石の均し作業をするため後退したところ、現場の作業状況の写真撮影をしていた被災者に激突した。	30106	7	1～9
2005	4	9 ～ 10	運搬用の4トントラックにブル・ドーザーを載せる際にバランスを崩して横転し、作業者が下敷きとなった。	30109	2	30～ 49
2005	10	14 ～ 15	タイヤローダーの排土板の刃を交換するためアームを上げた状態で作業を行う際、排土板の外れ止めピンを抜いたままにしていたため、排土板が外れ、下で作業を行っていた被災者に落下した。	120101	4	10～ 29
2005	5	16 ～ 17	護岸工事において、作業用道路を整備するためブル・ドーザーにより中州周辺で整地作業を行っていたところ、後退の操作を行った際に川の深みにはまり、転落した。	30107	1	1～9
2005	7	16 ～ 17	水田の基盤整備事業の工事現場内において、ブル・ドーザーを運転していた被災者が、盛土の斜面で、自分の運転していたブル・ドーザーのクローラ部分でひかれた。	30199	7	30～ 49
2005	12	11 ～ 12	河川災害復旧工事において、大型土のう撤去のため、ドラグ・ショベルを操作して、土のうをつつて旋回したところ、バランスを崩してドラグ・ショベルごと河川へ転落した。	30107	1	1～9
2005	11	15	片側道路規制を行っている工事現場において、工事用ダンプトラックと一般車両の誘導を行っていた被災者が別の作業者が誘導するドラ	170201	7	100 ～

		16	グ・ショベルにひかれた。			299
2005	10	15 ～ 16	碎石プラント跡地の整地作業において、ドラグ・ショベルを運転走行中、池の部分の軟弱地盤箇所です同ショベルが横転して水没し、被災者が溺れた。	30199	2	10～ 29
2004	5	9 ～ 10	産業廃棄物選別棟において、分別棟内の電線置き場に廃棄物を置き、所定の持ち場に戻る際、方向転換のため後退したトラクター・ショベルの後輪にひかれた。	150102	7	1～9
2004	7	11 ～ 12	下水道工事に伴う測定の補助作業において、中腰の姿勢で測定のためのピンを持っていた被災者が、背後から後退してきたドラグ・ショベルの排土板で押し倒された。	30110	6	10～ 29
2004	1	9 ～ 10	同僚とトラクター・ショベルの運転を交替し、運転室横ステージに乗っていた被災者が、トラクター・ショベルが前進した際に転落、後輪に巻き込まれてひかれた。	20201	7	10～ 29
2004	8	8 ～ 9	河川改修工事現場において、ドラグ・ショベルを使用し土嚢2個をつり上げ右旋回中に岸から河床へ約3mの高さを当該ショベルが転落し、それにより被災者は運転席から投げ出された結果、ショベルのクローラ部の下敷きとなった。	30107	1	30～ 49
2004	6	11 ～ 12	村道の法面（のりめん）修繕工事現場において、ドラグ・ショベルを運転して法面の掘削作業を行っていたところ、当該ドラグ・ショベルがバランスを崩し約5m下の谷川へ転落した。	30106	1	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	構内の造船ドック内において、トラクター・ショベルを使用してポンツーン（浮き棧橋）製作中に出たコンクリートガラの除去作業（トラックへの積込作業）および当該ドック内のヘド口の除去作業において、トラックにガラを積載後、トラクター・ショベルでバックしたところ、ヘド口の溜まっているピット（縦8m、横6m、深さ約2.2m）に転落した。	30199	1	10～ 29
		0	下水道管敷設工事現場から資材置場に搬入される土砂を台地状に盛り			

2004	1	1	～	上げる作業終了後に盛土から下ろそうとした重機が転倒し、投げ出された被災者が地面と重機の天蓋との間に挟まれた。	30110	1	1	1～9	
2004	9	13	～	14	ホイールローダーで町道を走行している際に、運転を誤って山側斜面に乗り上げ、切り返してバックする際に転倒し、ホイールローダーの下敷きになった。	140301	17	10	29
2004	7	13	～	14	資材置場に止めていたブル・ドーザー（機体重量3.3t）を資材置場から約100m離れた工事現場へ運転し向かったが、途中でエンジンが止まったため歩いて工事現場に行き、同僚にその旨を伝えてから再びブル・ドーザーに戻った。その後、現場に戻ってこない被災者のことを不審に思った同僚が見に行くと、ブル・ドーザー右側のクローラに仰向けの状態でひかれている被災者を発見した。	30109	7	1	9
2004	9	8	～	9	処理済鶏糞をホイール式トラクタショベルで、4tトラックに積み込む作業中、トラクタショベルの後方にいた被災者がバックしたトラクタショベルの左側後輪にひかれた。	70101	7	10	29
2004	12	13	～	14	リサイクルセンターにおいて、ダンプカーの荷台に積まれたアスファルト合材をおろす作業をダンプカーの荷台の後方で行っていたところ、廃材運搬のために同リサイクルセンター内を走行していたトラクター・ショベルに激突された。	40301	6	10	29
2004	11	14	～	15	整地していたブル・ドーザーが、隣接現場のキャリアカー（不整地運搬車）が前進してきたので、それを通過させようとバックした際、ブル・ドーザーの後方にいた被災者が、当該ブル・ドーザーにひかれた。	30107	6	10	29
2004	4	8	～	9	造成工事においてブルドーザーで山砂をならそうとしてエンジンをかけたところ後進し、法面（のりめん）（高さ85cm・傾斜51度）からブル・ドーザーごと転落した際放り出されて地面に激突したところへブルドーザーがまたぐ形で通過し、そのまま排土板に引きずられた。その後、同機が田んぼに差し掛かり上下に揚動した排土板に激突された。	30109	1	1	9

2004	8	14 ～ 15	トラクター・ショベルのマフラー交換作業中、トラクター・ショベル上、高さ2.4mのところから墜落した。	20202	1	1～9
2004	10	8 ～ 9	工所用道路の坂道を利用してドラグ・ショベル（機体重量6t）を車両積載形トラッククレーン車（最大積載過重4t）に積み込んだ後、車両積載形トラッククレーン車のアウトリガーを戻していたところ、突然、車両積載形トラッククレーン車が下り坂を下りはじめ、約12m逸走したところで坂道から転落、その衝撃で車両積載形トラッククレーンの荷台からドラグ・ショベルがずり落ち被災者に激突した。	30199	6	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	トラクター・ショベルを運転し、牧場内の整地作業（ダンプで運搬した土砂を平らにならす作業）を行っていたところ、作業中にトラクター・ショベルとともに横転し、下敷きになった。	70101	2	1～9
2004	8	16 ～ 17	農道整備にかかる下層路盤の置換工事現場で、10tダンプカーから小分けし下ろされた碎石の山を、ドラグ・ショベルの排土板を使い前進、後退させながら路面を平らに整地、転圧を行っていた際、ドラグ・ショベルの後方でスコップを使いならしていた被災者に激突した。	30106	7	1～9
2004	2	8 ～ 9	修理のためトラクタ・ショベルのバケットを最上部まで上げて油圧ホースの点検中、バケットアーム上下用シリンダーの油圧ホース2本を抜いたため急降下したバケットアームに激突された。	11702	6	1～9
2004	2	16 ～ 17	砂利採取場において、表層土等を掘削採取した個所をトラクター・ショベルにより砂利で埋め戻し作業中、砂利掘削個所に転落した。	10901	1	50～ 99
2004	1	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを用いて、作業道に積もった雪をドラグ・ショベルのクローラで踏み固める作業中、下り勾配（22度）の雪でスリップ、作業道路肩から沢に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きになった。	30199	1	10～ 29

2004	9	10 ～ 11	車両系建設機械を運転する業務に係る職業訓練の実習中、訓練生が運転しやすくするためにブル・ドーザーを使って盛土をならす作業を行っていたところ、盛土個所にあった高さ約1.5mの段差を後進で乗り越えた衝撃でブル・ドーザーを運転していた被災者が運転席から後ろに投げ出され、後進を続けていたブル・ドーザーのクローラにひかれた。	120109	7	30～ 49
2004	7	9 ～ 10	ブル・ドーザー（機体重量15.58t）を運転し、水面から高さ約3m、勾配20～28度の法面（のりめん）を整形しようとして上部から法面に沿って降りていたところ、そのままブル・ドーザーごとダム貯水池（水深約3m）に転落した。	30107	1	50～ 99
2004	4	15 ～ 16	木材製品製造工場の工場建屋内に駐車するために移動していたトラクター・ショベルの後方に誤って立ち入り、後退してきたトラクター・ショベルに接触した。	10401	7	1～9
2004	7	11 ～ 12	牛の排泄物運搬等に使用しているトラクター・ショベルのエンジンルームの清掃を行うため、後輪を角材の上に乗せエンジンルームの底板を取り外すため車両の下に潜って作業していたところ、後輪が角材端部から落ち車両と地面の間に挟まれた。	70101	7	1～9
2004	1	16 ～ 17	ブル・ドーザーを運転してゴミの集積・締固め等の作業を行っていた際に、堆積したゴミの山からブル・ドーザーごと転落した。	150103	1	10～ 29
2003	11	18 ～ 19	鶏舎暖房用ボイラーに燃料となる鶏糞をトラクター・ショベルで投入して敷地内の砂利道を走行中、高さ約5mの法面（のりめん）を転落した。	70101	1	1～9
2003	11	14 ～ 15	保安林管理道整備工事において、道路側溝となるU型トラフをつるために使用していたドラグ・ショベルを後方へ移動させようとしたときに、ドラグ・ショベルと後方に停車していた敷モルタルを積載したダンプ・トラックとの間にはさまれた。	30106	7	10～ 29
		11	飼料の入った袋（重さ約450kg）の運搬をトラクター・ショベルで行う			

2003	10	～ 12	ため、バケットのフックに袋を掛けようとショベルの運転席からアー ムの上を歩行していて墜落した。	11709	1	1～9
2003	10	17 ～ 18	遊歩道等の建設工事において、ドラグ・ショベルで幅約1.5mの管理道 路上にある伐根の除去作業中に機械の後部が路肩から落ちそうになっ たので、運転を代って約32度の斜面を約1m下ったときに、機械が斜め 左前方に傾いて転倒し倒れてきた機械の下敷きになった。	30201	1	30～ 49
2003	10	10 ～ 11	山地内の整地作業において、ブル・ドーザーを運転中に隣接する農道 (幅4m) を越えて4m下の川に転落し下敷きとなった。	30109	1	1～9
2003	10	0 ～ 1	原石の採取場で、採取した原石をダンプに積み込む作業の前にタイヤ ショベルを最初に停めてあった場所まで戻そうと後進で移動させてい たときに、道路端から川へ車両ごと転落し溺死した。	40301	1	1～9
2003	10	8 ～ 9	山間の採石場で、泥取り作業を行っていたトラクター・ショベルが見 えなくなったので探したところ、作業場端の高さ約19mの崖下に転落 しているのが発見された。	20201	1	1～9
2003	10	7 ～ 8	砕石プラントにおいて、トラクター・ショベルで10tダンプに砂利を積 込み移動しようとしていたところに、トラクター・ショベルがバケッ トを地上から2mほど上げた状態のままダンプに向かって前進してきて 激突された。	40301	6	10～ 29
2003	9	7 ～ 8	作業ヤード内で、内装解体現場よりトラックで搬入した廃材を重機で 摘みショベルローダーのバケットに移していて、こぼれ落ちた廃材を 拾うとしてトラックとローダー間に入ってきたときに、ローダー運転 手がローダーを後進させようとして前進させてしまったため、ロー ダーバケットとトラック荷台との間に腹部をはさまれた。	150102	7	10～ 29
2003	9	11 ～ 12	赤松の皮むき作業において、ホイール・ローダーで皮むきが終わった 木材の寸法を測定したのち、ホイール・ローダーを車庫に入れるた め、バックさせたときに後方にいた者をひいた。	80109	6	10～ 29

2003	8	15 ～ 16	バースで荷揚げした銅の原料を貯鉱庫へ運搬するため、貯鉱庫内で10t ダンプの誘導していたときに、トラクター・ショベル(体質量13t)が後 退してきて右前輪でひかれた。	40301	7	50～ 99
2003	7	8 ～ 9	コンテナで搬入してきた輸入合金鉄石（袋詰め）を倉庫内に降ろすた めの準備作業として、ショベルローダーを倉庫内にバックで進入させ ていたとき、倉庫内に停車していたフォークリフトに当たりそうに なったので、フォークリフトの運転手が止めようとしたがショベル ローダーの運転者が気付かず、ショベルローダーに激突された。	50101	6	10～ 29
2003	6	11 ～ 12	ホイール・ローダーで堆肥の切り替え作業を行っていたところ、ロー ダーのアーム油圧シリンダー部の油圧ホースがパンクしたので油圧 ホースを取り替えるため、バケットを上げて前輪の間に立って油圧 ホースのナットを緩めていたときに、バケットが降下してきてアーム とローダー本体との間に頭部をはさまれた。	170209	7	30～ 49
2003	6	11 ～ 12	トラクター・ショベル（機体質量1.5t）を使用してドラム缶（約 200kg）をつり上げる作業で、玉掛けのためトラクター・ショベルの アームを上げた状態で運転席から降りようしたときに、運転席内の アームを降下させるペダルに触れたためアームが降下し、アームはド ラム缶に当たって停止したがアームの油圧の力により前輪が浮き上が り、アームと車体の間に頭部をはさまれた。	150102	7	1～9
2003	6	10 ～ 11	高速道路の取り付け道路工事で、ドラグ・ショベルで掘削した土砂を 不整地運搬車に積んだ後に土捨場に向いかけたときに、後退して左旋 回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトが不整地運搬車の運転 席に激突し、運転手が全身打撲を受けた。	30106	6	50～ 99
2003	5	14 ～ 15	工場の増改築工事において、トラクター・ショベルを運転して工場の ひさしに廃材であるプラスチックタイルを集積する作業を行っていた ときに、トラクター・ショベルとともに約4m下の地上に転落した。	30201	1	10～ 29
2003	4	10 ～	ブル・ドーザーをトレーラーに積み込む作業中、後進してきた無人の	30106	7	10～

		11	ブル・ドーザーに全身をひかれた。			29
2003	4	8 ～ 9	清掃センターの焼却灰埋立地において、灰の均しに使用するブル・ドーザー（機体質量12t）の燃料を補給するため、燃料を入れたドラム缶を置いている斜面6度の坂に止めていたところ、無人のブル・ドーザーが後退してきて履帯の下敷きとなった。	150103	7	1～9
2003	3	10 ～ 11	ゴミの中間処理場で、手作業でゴミの選別作業をしていたときに、直進してきたホイルローダーにひかれた。	150102	7	10～ 29
2003	3	10 ～ 11	倉庫内で、トラクター・ショベルでごみ固形燃料発電用の円筒形チップを積み上げていたところ、高さ約5mのチップの上からトラクター・ショベルが横転し、下敷きとなった。	170209	1	1～9
2003	2	14 ～ 15	伐倒木を斜面から作業道へ引っ張り上げるため、伐倒木6本にワイヤをかけてブル・ドーザーのウインチで引っ張り上げる準備中、土場に傾斜（約8度）があり、また、ブル・ドーザーのブレーキ及びギヤーがかかっていなかったことからブル・ドーザーが作業道を逸走し、クローラ上でウインチの操作をしようとしていた作業者がクローラから墜落した。	60201	1	1～9
2003	1	15 ～ 16	保冷車（2t車）の曲がった右サイドバンパーを修理するため、修理箇所とトラクター・ショベルの後部牽引箇所をワイヤロープで繋いでショベルで引っ張る作業を行い、修理箇所が元にもどったのでワイヤを緩めようとショベルが進んでいるときに、ショベル側のワイヤを外そうとしてショベルと保冷車との間に立入り胸部をはさまれた。	40301	7	100 ～ 299
2002	12	11 ～ 12	ガス管布設工事において、開削時に使用する鉄板（1220×2440×20mm）2枚をドラグショベルで吊り上げ水路内に降ろそうとしたときに、機体が横転し電信柱と機体との間に首を挟まれた。	170209	2	30～ 49
2002	11	14 ～	トラクターショベル（タイヤ式四輪駆動）で養鶏場の鶏糞をダンプトラックに積載し、後進で戻るときに後方右輪が約70cmの段差で脱輪	10101	2	100 ～

		15	したため横転し下敷きになった。			299
2002	10	13 ～ 14	トラクターショベル（機体質量2560kg）でゴルフコースのグリーンに目土を入れているときに、斜面（傾斜が15度から30度）でトラクターショベルが横転し下敷きになった。	170209	1	1～9
2002	11	10 ～ 11	ブルドーザーでバックしたときに、トドマツ（長さ18m、胸高直径28cm）のかかり木にブルドーザーの後部が接触してかかり木が倒れたので、それを見た他の作業員が「あぶない」と叫んだので運転者がブルドーザーのキャビンから顔を出したときに、かかり木が頭部に当たった。	60201	4	10～ 29
2002	11	10 ～ 11	市道の改良舗装工事の交通警備を行っていて、現場内を後退してきたブルドーザーの右後方のキャタピラーに轢かれた。	170201	6	10～ 29
2002	10	17 ～ 18	道路上の敷鉄板表面についた泥をドラグショベルのバケットで取り除く作業で、オペレーターが運転席から後方に誰もいないことを確認したのち1mほど後進したときに、交通誘導員を右側クローラで轢いた。	170201	7	10～ 29
2002	9	9 ～ 10	残土処分場で、敷地境界線部分に土手（盛土）を形成するため1人でブルドーザーを運転（前後進）していたが、2度目の後進途中で何らかの原因によりブルドーザーの排土板に激突された。	30199	6	10～ 29
2002	2	17 ～ 18	セメント粉体を入れたフレコンをダンプトラックに積み込むため、トラクター・ショベルにフレコン2袋を吊り下げて後進したところ、電話機（子機）で話しながら通行していた者を跳ねた。	40302	6	1～9
2002	6	10 ～ 11	敷地内の事務所から作業場に向って歩行中、コンクリートがらを山積みしたトラクターショベルが後進してきて、後部バンパーと激突して転倒したところを右後輪で轢かれた。	10909	6	1～9
2002	4	9 ～ 10	下水道排水施設工事で、埋め戻される掘削土の土質改良を行う土質改良プラントの施工状況を写真撮影するため、黒板にかがんで記入していたときに、後退してきたトラクターショベルに轢かれた。	30110	7	1～9

2002	4	14 ～ 15	産業廃棄物の選別作業を行っていたときに、他の者がトラクター・ショベルを後退させたためトラクター・ショベルに巻き込まれた。	150102	6	10～ 29
2002	6	16 ～ 17	土捨て場に運び込まれた土砂の均し作業で、途中でブル・ドーザーが動かなくなったため運転席左側の覆帯に乗り運転席前方のエンジン部分を点検していたときに、突然ブル・ドーザーが動き出したためキャタピラに巻き込まれた。	30199	7	1～9
2002	5	0 ～ 1	碎石の積み込みを行うため、ショベルローダー（20t）の近くに大型ダンプを止めてダンプから降りて敷地内を歩いていたところ、後退してきたショベルローダーに轢かれた。	170209	7	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	トラクターショベル（機体質量6.8t）で束ねられたビニールハウスの骨組用鉄製パイプを吊り上げて運搬中、トラクターショベルの前方でパイプの振れ防止のため介添えしていた者がトラクターショベルに轢かれた。	170209	7	1～9
2002	4	16 ～ 17	砂防ダム建設現場において、堤体建設予定場所の直近上部で作業していたドラグショベルの履帯下の盛土が重量に耐え切れず崩壊し、傾斜約35～30度、水平距離約20m、高さ約10mの谷底に機体の左側から転落して運転席が直径1m程の岩に激突し潰れた。	30108	1	10～ 29
2002	5	16 ～ 17	河川改修工事において、土止め支保工を設置した河床で車両系建設機械（油圧式ドラグショベル）により川底の掘削作業を行っていたときに、土止め支保工の切梁と車体運転席との間に挟まれた。	30107	7	10～ 29
2002	4	8 ～ 9	採石場内において、近くの工事現場で発生した土を再利用するため仮置きすることとなり、ダンプによる搬入に備えホイールローダー（17t）を使用し掻き揚げを行っていたところ、高さ約5mの頂上付近でホイールローダーが転落し運転室が圧潰した。	20201	1	1～9
2002	3	9 ～	ブロック積擁壁設置工事のコンクリート打設作業で、ドラグショベル（機体質量9220kg）のバケット（容量0.5?）のフックにワイヤーをかけて吊る作業が終了したので、県道上でバケットをショベルのバケッ	30106	7	10～

		10	トフックから外しているときに、ショベルのバケットとコンクリートバケットとの間に身体を挟まれ死亡した。			29
2002	4	17 ～ 18	農業用水配水管埋設のため掘削した溝の中で、クラムシェルにより降ろした土砂をドラグショベルで切梁下へ敷き均していたときに、ドラグショベルが後退したためドラグショベルの走行レバーと後方に設置されていた切梁との間に挟まれた。	30107	7	30～ 49
2002	3	11 ～ 12	トラックローダーのアタッチメント取付基部（バケットストッパー）の調整中、アームが下降してきて本体とアームとの間に挟まれた。	11702	7	1～9
2002	3	10 ～ 11	土地造成工事で、ブルドーザーを運転して高さ1.35mの盛土を乗り越えたときに、運転席から転落してブルドーザーに轢かれた。	30109	7	1～9
2002	3	15 ～ 16	ずい道内において、ずり積み機の油圧ホース端末が固定されていないことに気付き、バケットテーブル（ずりをすくい上げる装置）に乗って番線で固定していたときに、ずり積み機のオペレーターがバケットテーブルを開いたため、テーブルと坑内の壁面との間に胸部と腹部を挟まれた。	30102	7	1～9
2002	2	22 ～ 23	採石場の切羽近くにおいて、ブル・ドーザーを運転して「ずり」を押していたところ、14m下の段へブルごと転落し、さらにその勢いで60m下の崖下に転落し「ずり」に埋まった。	20201	1	30～ 49
2002	2	16 ～ 17	採石作業現場において、四輪駆動のトラクターショベルを運転して傾斜角23度の斜面を移動（下降）中、バランスを崩して斜面上を約30m（高さ約12m）転落した。	20209	2	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	採石現場においてタイヤショベルでクラッシャーのホッパーに碎石を投入作業中、通路を外れて高さ約7m、勾配約40度の斜面をショベルが後ろ向きに滑り落ち、運転席から投げ出された。	20201	1	1～9
		9	産業廃棄物処理施設において、トラクター・ショベルで木片・木くず			

2001	12	～	等を運ぶ作業をしていて、木クズを降ろすためバックしたとき近くに	150102	6	10～
		10	いた者を右後輪でひいた。			29
2001	12	～	送電線鉄塔基礎の築山法面に設置したコンクリート花壇の欠けた部分	30201	7	10～
		16	のモルタル補修を行っていたときに、排土板付のドラグショベル(機体			29
		17	質量5.6t)が敷地内の整地のため表土を押し均ながら進んできて、アー			
			ム先端のバケットでバケットとコンクリート花壇との間にはさまれ			
			た。			
2001	12	～	乳業工場から農家の肥料堆積場へ通じる農道の除雪作業に使用するト	40301	1	10～
		14	ラクターショベルをトレーラーから降して約300m先の肥料堆積場に向			29
		15	かって走行中、幅約4mの緩やかな右カーブで農道から逸脱して高さ			
			1.7m下の畑(雪原)に転落して逆さまとなり、運転席のキャビンが押し			
			つぶされた。			
2001	10	～	0.02クラスのドラグショベルで共同溝内底盤の荒仕上げ作業中に、走	30199	7	10～
		10	行レバーに触れたためドラグショベルが切梁の下を通過し、背中側か			29
		11	ら押される形で切梁とドラグショベルの走行レバー及び前側のガード			
			との間に挟まれた。			
2001	11	～	9	10909	6	10～
		10	碎石場において、スコップを取りに行くためトラクターショベルの後			29
			方を横切ったときに、後退してきたショベルの左後輪にひかれた。			
2001	9	～	14	140301	2	100
		15	伐木した黒松をトラクター・ショベルのバケット部分にワイヤロープ			～
			を結び、傾斜地を後進しながら運搬していたときに、トラクター・			299
			ショベルが横転し、ショベルの下敷きになった。			
2001	10	～	17	30199	1	10～
		18	法面の保護工事において、法面から道路に落ちた残土、岩石等をトラ			29
			クター・ショベルで集積、運搬しているときに、道路左側の法肩から			
			約5m下にトラクター・ショベルごと転落し、下敷きになった。			
2001	9	～	15	30106	1	1～9
			林道開設工事において、ドラグショベルを移動させていたところ、路			
			肩が崩壊し林道から10m下の斜面に転落し、ショベルの下敷きになっ			

		16	た。			
2001	9	16 ～ 17	砂利プラントにおいて、沈殿池からクラムシェルで引き揚げた泥をブルドーザーで整地する作業に従事していた者が戻らないため、同僚が探しに行ったところ約100m離れた別の沈殿池に向かうキャタピラの跡があり、池の中で死亡していた。	20202	1	30～ 49
2001	9	10 ～ 11	砂利採取場において、池の中からドラグショベルで地上に盛土した砂をブルドーザにより約70m離れたダンプへの積込場へ運搬していたときに、水深約4mの池へ転落した。	20202	1	30～ 49
2001	9	9 ～ 10	林道開設工事において、ドラグ・ショベルで作業中に幅4.35mの林道の石積みの路肩が長さ7.6m、幅1.85mにわたって崩落し、ドラグ・ショベルとともに11.7m下の谷底に転落した。	30106	1	1～9
2001	8	15 ～ 16	残土集積現場でブルドーザ(機体質量約8t)を運転していて高さ約4mの崖から転落した。	30199	1	1～9
2001	8	13 ～ 14	ブルドーザーをセルフローダー(荷台傾斜式貨物自動車)から降ろす作業中、セルフローダーの運転席から降りていてブルドーザーに巻き込まれキャタピラー右前部と排土板との間に挟まれた。	40301	7	1～9
2001	7	17 ～ 18	ゴルフ場内の現在は使用していない練習場内において、車両系建設機械で仮通路を作る整地作業中に傾斜面に乗り上げて左側に横転し、横転した車体と地面との間にはさまれた。	140301	2	100 ～ 299
2001	7	10 ～ 11	工場敷地内でアルミインゴットの製品置場から工場に向かって歩いていたところ、廃材(アルミ缶)の整理作業に使用していたトラクターショベルがバックで走行してきてはねられた。	11109	6	10～ 29
2001	7	16 ～ 17	残土置場において、2tダンプの荷台後方で搬出土が路面に落ちないように均していたときに、後進してきた同僚の運転するホイールローダ後部とダンプ後部との間に胸部を挟まれた。	30110	7	1～9
		16	製砂場において、トラクターショベルを運転中、作業用通路から約15			10～

2001	7	～ 17	m下の土場に転落した。	20201	1	29
2001	6	～ 15	回収した段ボール及び新聞紙をトラックで営業所まで運び、段ボールの荷崩れ防止に使用したロープを片付けしていたときに、他の労働者が運転するトラクターショベルがバックしてきてひかれた。	80109	6	1～9
2001	6	～ 17	ゴルフ場造成工事において、被災者は、地盤改良のためのボラ土を運搬するためにトラクターショベルでボラ土採取箇所まで勾配10度の作業道を前進で下っていたところ、路肩左側に寄りすぎて約5m下の道路に転落した。	30199	1	30～ 49
2001	4	～ 14	石灰石鉱山の石灰石貯鉱槽にゲートを新設する工事において、部品を取り付けるためトラクターショベルのバケットに乗って作業を行っているときに作業ゲートとバケットとの間に挟まれた。	20309	7	30～ 49
2001	6	～ 11	ごみ処理施設にごみを捨ててに行った際、構内で作業をしていたショベルローダーにひかれた。	140201	6	1～9
2001	5	～ 11	トラクターショベルで4段に積まれていた材の束のうち一番上の材の束を降ろしていたときに異常があったので途中で止め、エンジンをかけそのまま運転席から降りて材の束の前方に回ったときに、トラクターショベルが動き出し、積まれていた材の束とトラクターショベルで降ろしていた材の束との間に挟まれた。	80109	7	10～ 29
2001	3	～ 3	道板を使用してバックホーを自走によりトラックに積み込む作業中、道板が外れた反動でバックホーがの荷台上から転落したため、運転者が道路に設置されたガードレールと横転したバックホーのヘッドガードとの間に頸部を挟まれてた。	30301	2	50～ 99
2001	4	～ 16	バケット容量0.25m ³ のドラグショベルで土止め用矢板の部材(約1200kg)を吊り上げて旋回中ドラグショベルが倒れたため地面とドラグショベルのキャビンのドア支柱との間に挟まれた。	30110	2	10～ 29

2001	3	16 ～ 17	ドラグショベルにヘッドガードを取り付ける作業で、原動機を止めないままショベルにヘッドガードをのせたところ、前方の運転席側に傾いて前後進レバーにかかった状態となったので、立て直そうとして後方に引いてしまったためレバーが後進に入ってドラグショベルが後進し、左クローラー上でヘッドガードを保持していた者が左クローラーにひかれた。	30199	7	1～9
2001	2	11 ～ 12	産業廃棄物中間処理施設で持ち込まれた産業廃棄物の分別作業中に、バックで運転中のトラクター・ショベル(ホイール式)の右後輪に触れ転倒し頭部をひかれた。	150102	6	1～9
2001	1	7 ～ 8	前日までに伐倒したトドマツの伐倒木をブルドーザーで集材するため、牽引用ワイヤーロープをウインチから引き出そうとしたが重くて引き出せなかったため、ウインチを動かすため重機運転手が運転席に乗らずにエンジンをかけたところブルが後進し、ブルの後方に居た集材夫がひかれた。	60201	7	1～9
2001	1	13 ～ 14	自動車道工事現場において、ブル・ドーザーの上部ローラーの交換を行い、ブル・ドーザーの運転席から降りるときに転落し後頭部を強打した。	30105	1	1～9
2001	1	16 ～ 17	採石場において、ドラグ・ショベル(機体質量35t)岩盤上に堆積した土砂を土場に落とす作業を行っていたときに、谷側の地盤が崩れ、機体とともに約70m下まで墜落した。	20201	1	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	碎石現場内を、タイヤショベル(機体質量20t)で走行中に、オペレーターが前方の作業者に気付かずに右側前輪でひいた。	20201	7	1～9
2000	6	11 ～ 12	残土を運搬・造成する作業を4名で行っていて、使用していたブルドーザー1台(機体質量5t)を他へ移送するために現場の盛土を利用してトラクターへ載せようとしたところ、ブルドーザーが後ろ向きにひっくり返ってその下敷きになった。	30199	2	10～ 29
		16	不整地運搬車(最大積載量850kg)に積んだ掘削土を農道上からダンピン			

2000	1	17	グしていたところ、運転を誤って勾配約35度の盛土斜面から転落し、3. 8m下の田圃で下敷きになった。	30106	1	10～ 29
2000	3	17	配水管布設工事において、ダンプから碎石を降ろす作業をしていたドラグショベルの近くで一般車両などの誘導者がバックしてきたドラグショベルにひかれた。	170201	7	50～ 99
2000	5	14	円筒型の貯水槽(コンクリート製、高さ約2. 7m)を手持ちグラインダーで3分割してドラッグショベルで移設するため、底部を吊り上げて旋回したときに荷が落下し、設置場所の床ならしをしていた者に当たった。	30106	4	10～ 29
2000	7	12	舗装工事現場内において、アスファルト舗装前にしゃがんだ姿勢でコンクリート壁に墨打ち作業をしているときに、後進してきたモーター・グレーダー(機体質量=7. 4t)の右後輪にひかれた。	30199	6	50～ 99
2000	6	9 10	山を果樹畑(梅園)にするため、ドラグショベルで作業中に造成地の斜面下に転落し、キャビンに挟まれた。	30109	1	1～9
2000	1	17 18	ため池の蓄積土を取り除くため、ドラグショベル掃除用のコンプレッサーをドラグショベルに吊って移動中に、ドラグショベルが転倒しその下敷になった。	30199	2	10～ 29
2000	10	17 18	産業廃棄物中間処理施設において、トラクターショベルで搬入された産業廃棄物を木くず類・廃プラスチック類・その混合材の3種類に分別し、手作業で分類していて、手作業を行っていた者がトラクターショベルにひかれた。	150102	6	30～ 49
2000	12	10 11	国道下に埋設された下水道枝管を埋設する工事で、道路上の一般車両等の交通誘導中の警備員が後退してきた小型のドラグショベルのクローラ部に左足首から左大腿部にかけて踏み潰された。	170201	7	1～9
2000	10	10	現場に給油にきたタンクローリーが斜面(傾斜角10度)でスリップしたのを救出のためブルドーザの運転席から離れタンクローリーの状況を確認しようとしていたときに、タンクローリー運転手がタンクローリー	30199	17	30～

		11	を発進させたためブルドーザが引っ張られるかたちで斜面を後退し始め、その衝撃で地面に転落しブルドーザに頭部をひかれた。			49
2000	6	16 ～ 17	道路に崩壊した土砂の除去作業が終了し、トラクター・ショベルを自分で移送するため方向転換したときに、道路脇の法面に乗り上げ横転しヘットガード部の下敷きになった。	30106	2	1～9
2000	8	17 ～ 18	トレーラに積んでいた木材(角材を10本結束したものの330組)が崩れかかっていたため、トラクターショベルのバケット先端部で木材を押して荷崩れを直そうとして運転者がアクセルを強く踏み込んだため急激に前進し、当て木を持っていた者がトレーラの荷台とバケットの間に胸部を挟まれた。	40301	7	10～ 29
2000	6	14 ～ 15	倉庫内で廃棄物であるベッドのマットレスの解体作業を行っていたときに、バックしてきたトラクターショベルに接触転倒し、ショベルの右前輪に胸部をひかれた。	150102	7	10～ 29
2000	2	14 ～ 15	海岸改良工事において、トラクター・ショベルで仮設用道路の脇に砂を運搬していたときに工事用写真の準備作業をしていた労働者2名をひいた。(1名死亡、1名休業)	30309	7	30～ 49
2000	7	19 ～ 20	作業所内においてトラクターショベルを操作して分別した産廃ごみをコンベア横に押し集めるため前進させたところ、付近にいた者を右前輪でひいた。	150102	7	30～ 49
2000	8	9 ～ 10	ドラグショベル(機体重量7.5t)で用水路(幅1m)の上に敷いてあった鉄板(重さ1.6t)を移動するため、バケットとアームの付け根にワイヤーを掛け鉄板を吊り上げようとしたときにドラグショベルが運転席側に横転し、下敷きになった。	30199	2	1～9
2000	4	16 ～ 17	モータグレーダで傾斜に面した工事用道路の整地作業をおこなっていて、運転していたモーターグレーダにひかれた。	30107	7	10～ 29
		11	トラクターショベル(機体重量4.44t)でゼオライト岩石をクラッシャー			

2000	9	～	(破碎機)のホッパーに投入し、下り坂を後退させながら下りていたとき	10909	2	1～9
	12		に、横転し、その下敷きとなった。			
2000	8	8	船から降ろされた木材の検数作業中、船上の木材を降ろす移動式ク	170209	7	10～
		～	レーンのグラップルを運搬していたフォークローダーにひかれた。			29
		9				
2000	7	11	事業場構内の不燃物処理資源化施設からごみ焼却施設に可燃物を運ぶ	150103	7	10～
		～	ため、トラクター・ショベルのバケットに可燃物を積載して後退した			29
		12	ところ、後方にいた者をひいた。			
2000	6	9	資材等倉庫から営業所までグレーダーを移動させるため県道を走行	30111	17	30～
		～	中、運転を誤り高さ約9cm、幅約40cmの護岸を乗り越えて約2.4m下の			49
		10	海岸に転落した。			
2000	3	10	作業現場に生コンを運搬するため、ドラグショベルのバケットに生コ	10901	7	10～
		～	ン車シューターから生コンを投入していて、車後部のステップに上が			29
		11	り、シューターに残った生コンを生コン車運転手が掻き落とす作業を			
			していたときに、ショベル運転手が立ち上がって生コンの残量を確認			
			し座席に座ったところ、防寒服が操作レバーに引っ掛かったためショ			
			ベルアームが左に旋回し、ショベルバケットと生コン車との間に胸を			
			挟まれた。			
2000	1	13	護岸工事現場で、測量作業をしていたを後進してきたドラグショベル	30107	6	10～
		～	がひいた。			29
		14				
2000	12	9	火山灰採取場で、ブルドーザー(機体重量5.52t)で火山灰の押出し作業	40301	1	10～
		～	中に傾斜約15°の斜面にブルドーザーを停止させ、運転席から降りて			29
		10	キャタピラの上を歩いていたときに、ブルドーザーが動き出したため			
			バランスを崩してブルドーザーの排土板とキャタピラとの間に転落			
			し、排土板で胸を強打した。			
		10	農地に火山灰を入れる土壌改良工事において、仮設道路にダンプが進			10～
			入してきたので火山灰を均す作業をしていたブルドーザー(機体重量			

2000	11	～ 11	4. 9t)が仮設道路外に出て交すために後退したときにそこにいた者をひいた。	30199	7	29
2000	10	16 ～ 17	屋外ごみ分別作業場でドラグショベル、タイヤショベルとともにごみ選別作業をしていて、ドラグショベルの後方で待機していたところにタイヤショベル別の作業を行うため移動してきて待機していた者をひいた。	150102	6	10～ 29
2000	5	6 ～ 7	造林作業の現場において、カラマツの苗を布袋に入れてブル・ドーザーの後部に吊り下げて運搬作業中に、ブル・ドーザーを一旦停止させて降車したところ、ブル・ドーザーが逸走してひかれた。	60209	6	10～ 29
2000	2	11 ～ 12	ダム工事現場の取付道路で雪にはまったライトバンを除雪用のブルドーザーで移動させた後、ブルドーザーを元の場所に戻すため走行中、作業者がブルドーザーのキャタピラでひいた。	30199	3	1～9
2000	2	0 ～ 1	伐採木の搬出作業を行っていたブル・ドーザーのオペレーターが、かかり木の処理を行うために林の中に入れて機体を反転させて後退を始めたときに作業者をひいてしまった。	60201	7	10～ 29
1999	12	17 ～ 18	下水道工事が終了したので翌日の工事に備え開口部に雪が入るのを防 止するビニルシート掛け作業をしていたときに、駐機場所へ移動中の バックホーにひかれた。	30110	7	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	積荷のドロマイドを陸揚げするため、船倉内においてブルドーザー(機 体重量5t)でドロマイドをかき寄せる作業しているときに、ブルドー ザーをハッチの下まで入れ過ぎたため、ハッチとブルドーザーの運転 席のレバーとの間に挟まれた。	50101	7	300 ～ 499
1999	12	13 ～ 14	運転手交代のためトラクターショベルから降りて車輛置場から次の作 業場へ歩いて向かっていたところ、車輛置場からバックで出てきたト ラクターショベルにひかれた。	20201	6	10～ 29
		9	汚水管理設工事現場において、ドラグ・ショベルでランマーを吊り、 深さ約2メートルの掘削溝内におろそうとしたときに、ランマーが振れ			

1999	12	～ 10	たので押さえようとしてドラグショベルに近づきショベルのバケットと矢板との間に挟まれた。	30110	6	1～9
1999	12	～ 17	鉄筋コンクリートのビルの解体工事現場で、コンクリートのガラをドラグショベルでダンプに積込後、ショベルの前面に堆積した積み残しのガラを整地するため後方に移動し法肩いっぱいまでショベルを停止させたところ法肩のガラが崩れてショベルが転倒し、アームの一部が近くで作業していた者の後頭部に当たった。	30201	6	1～9
1999	11	～ 11	ブルドーザーを使用して路盤上に砂利を敷き均す作業を行っていたときに、後方で砂利をかく作業をしていた者をバック走行でひいた。	30199	7	10～ 29
1999	11	～ 12	伐倒したをブル・ドーザーで運搬する作業において、20～25度の傾斜地にブルを停車させ中出した原木のワイヤーロープを外したときに、ブルが動き出したためこれを停止させようとブルに飛乗ったが振落とされひかれた。	60201	6	10～ 29
1999	11	～ 10	傾斜角23度の傾斜地から玉切りした倒木をドラグショベルのバケットに取り付けたフックにワイヤーロープで繋いでバックで土場まで引き降ろしていたときに、左後方キャタピラーが根株に乗り上げて右方向に横転し、さらに回転したため運転者がキャビンから放り出された。	60201	1	1～9
1999	10	～ 14	碎石の積み込みを終えた2トントラックのあおりの固定を行っていたときに、採石場のトラクターショベルが後退してきてトラックとショベルとの間に挟まれた。	30201	7	1～9
1999	10	～ 10	ブルドーザーでトドマツ材(径24cm×33cm、長さ5.45m)を斜面から運材道まで引き出して、ブルドーザーを停止させ運転席から降りようとしたときに、誤って足を踏み外して落下し、傾斜のため動き出したブルドーザーにひかれた。	60201	7	1～9
1999	10	～ 8	碎石プラントにおいて、トラクターショベル(機体総重量23t)で原石ホッパーに原石投入後、左旋回をしながら後進したときに、進行方向	10909	6	1～9

		9	で作業をしていた者を右後輪でひいた。			
1999	9	16 ～ 17	機体重量2tのドラグショベルで矢板(重量600kg)を持ち上げ回転させたところ、ドラグショベルが転倒し、その下敷きとなった。	30110	2	10～ 29
1999	10	15 ～ 16	林道開設工事から出た残土を土捨場においてブルドーザーで斜面側に押し出しているときに、土捨場からブルドーザーとともに転落した。	30106	1	1～9
1999	9	15 ～ 16	国道改良工事の法面掘削工事現場において、ドラグショベル(機体重量2.8t)の移動中に路肩が崩れて機体が約2m下に転落した。	30106	1	1～9
1999	9	14 ～ 15	傾斜がおおよそ4度のところにトラクターショベルを停止させ運転台から車体上へ移動しようとしたところ、トラクターショベルが動き始め12.6m走行した地点でトラクターショベルの左前輪にひかれた。	10901	7	30～ 49
1999	6	11 ～ 12	資材置場に一年前から放置していたバックホーを使用しようとしたが、バッテリーがあがっていたため4mケーブルを小型ダンプのバッテリーと接続してエンジンをかけたところ、バックホーが右旋回したため、ケーブルの巻き取り作業をしていた者が、小型ダンプ助手席ドアとバックホーのカウンターウエートとの間にはさまれた。	20209	7	1～9
1999	8	16 ～ 17	国有林の間伐作業を終え、ブルドーザーで林道を走行していたところ、路肩から約20メートル下に機体ごと転落し、その下敷きとなった。	60201	1	10～ 29
1999	6	9 ～ 10	斜度25度の牧草地の表土掘削作業をブルドーザーで行っているときに、ブルドーザーが横滑りして約13m滑落して、横転しブルドーザーの下敷になった。	30199	1	10～ 29
1999	7	16 ～ 17	トラクターショベルで競走馬の寝わら等を焼却灰捨場に捨てに行き、捨場の斜面からトラクターショベルとともに転落し、その下敷きとなった。	70101	1	1～9

1999	7	13 ～ 14	機体重量5.7トンのトラクターショベルで培養土を作るために材料を混ぜる作業中、たい肥の原料ヤードに移動するため約24メートル直進させたところ、進行方向の地面に座り込んで打合せをしていた者2名をトラクターショベルのバケットとタイヤでひいた。	11709	6	100 ～ 299
1999	6	10 ～ 11	路床の深さをチェックするため、歩道側の水系と道路中心側の丁張を見通ししようとして腹ばいになったとき、歩道部の路床をならしていた3tブルトーザが、後進してきてブルトーザの下敷きとなった。	30106	7	30～ 49
1999	6	13 ～ 14	駐車していたダンプ車を移動させるため、路床の整正をしていたドラグショベルの後方を通行していたときに、後退してきたドラグショベルにひかれた。	30106	7	30～ 49
1999	4	17 ～ 18	ほ場整備工事において、現場の地盤の手直し箇所が生じたため、測量係の指示する測点に立ち「スタッフ」を保持していたときに、後進してきたブルドーザーの右履帯にひかれた。	30109	7	1～9
1999	6	14 ～ 15	廃材処理場内において、金属類の仕分け作業中に行方不明となったので探したところ、廃材の山の中で死亡していた。	30209	6	10～ 29
1999	3	8 ～ 9	河川の復旧工事現場で、タイヤショベルを使用して上方の田んぼの土手から再生骨材を河川床に入れる作業を行って、バケット内に骨材が残ったのでバケットを何度か振って落とそうとしていたときに誤って田んぼの土手からタイヤショベルとともに河川に転落した。	30107	1	10～ 29
1999	4	8 ～ 9	トラクターショベルで、鶏糞発酵場から鶏糞が山積みされた原料置場へ運搬中、原料置場の斜面でショベルが転倒し、その下敷きとなった。	11709	2	1～9
1999	4	15 ～ 16	スタビライザーによる地盤改良中に石が詰まりローターが動かなくなったので、ハンマーで叩いて取り除くため、ローター部に潜り込んで石を取り除いたとき、その反動でローターが少し回転すると同時に石で持ち上げられていたカバーが降下し、ローターとカバーとの間に挟まれた。	30106	7	1～9

1999	3	18 ～ 19	工事現場から2トンダンプにドラグショベルを載せて目的地へ降ろしたのち、ショベルを駐機場所へ移動しているときにショベルが転倒し、ヘッドガードと地面との間に頭部を挟まれた。	30199	2	10～ 29
1999	2	11 ～ 12	団地駐車場の造成工事の前段階の作業として砕石を平らに馴らす作業をスコップで行っていたときに、後進してきたドラグショベルにひかれた。	30199	6	10～ 29
1999	3	16 ～ 17	機体総重量9650kgのトラクターショベルで産業廃棄物の押し出し作業を行い、その作業終了後、後進でその場から発進したときに、車両の後方で清掃作業をしていた者を右側後輪でひいた。	150102	7	50～ 99
1999	2	14 ～ 15	河川改修工事において、鋼製矢板8枚をドラグ・ショベルで吊り上げたときに、堤防道路から約1.5m下の田んぼに転落し、ドラグ・ショベルの下敷きになった。	30107	1	10～ 29
1999	2	11 ～ 12	土砂と鉄屑が入っている鉄箱をバックホーで吊り上げ隣のピットに移動中、立って操作していたオペレーターが座ったときに服がレバーに引っかかってアームが回転し、バックホールの近くに居た者を直撃した。	40301	6	10～ 29
1999	1	9 ～ 10	事業場内の通路に積もった雪をトラクター・ショベルで除雪中、登り坂の通路の左側法面に乗り上げたため、トラクター・ショベルとともに転倒した。	60101	2	30～ 49
1999	1	11 ～ 12	築堤の天端上の除雪をブル・ドーザーを用いて行っていて、路肩から6.4m下にブル・ドーザーとともに転落し、ブル・ドーザーのヘッドガードと地面との間に挟まれてた。	30199	1	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html